

高等学校 令和5年度（2学年用） 教科 国語 科目 論理国語

教科：国語 科目：論理国語 単位数：2 単位  
 対象学年組：第1学年 A組～ H組  
 使用教科書：（高等学校 論理国語（第一学習社））  
 教科 国語 の目標：

- 【知識及び技能】基礎的言語能力（読む・書く・話す・聞く）およびコミュニケーション技能・能力の習得および向上
- 【思考力、判断力、表現力等】文章の種類を問わず、書き手の意図を的確に把握する力、および自分の考えを適切に表現する力の育成
- 【学びに向かう力、人間性等】自ら教科書以外の文章に多く触れていく姿勢の育成／他者に対する共感性や感受性の育成・向上

科目 論理国語 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
・漢字や語句など語彙力の向上 ・論理的な文章や実用的な文章に数多く触れることで基礎的な読解力を向上させる ・「書く・話す・聞く」など言語表現にかかわる技能の向上	・論理的な文章の構造を把握し、論理や文意を適切に把握する力 ・問われているテーマについて自分の考えを持ち、それを適切に表現できる力、および聞く力	・日常的に自分たちが触れているものよりも長め、難しめの文章を意欲的に読んでいこうとする姿勢 ・扱われているテーマについて自らより深く知り、考えていける力

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域			評価規準	知	思	態	配当 時数	
		読	書	話						
1 学期	単元 論理的な文章に触れる① 【知識及び技能】 「比較して考察する」論理 【思考力、判断力、表現力等】 根拠や論拠を批判的に検討し、文章の妥当性について吟味する 【学びに向かう力、人間性等】 読書の意義と効用を理解する	教材 評論『天然知能として生きる』 指導内容 評論文の読み方／比較文化論／段落構成と論理構造 端末活用 文中の「鹿おどし」「エステ家の噴水」などを調べる	○	○						6
	単元 論理的な文章に触れる② 【知識及び技能】 現代的コミュニケーションと自我の関わりについて知る 【思考力、判断力、表現力等】 自分という存在について考える 【学びに向かう力、人間性等】 自他の関係の在り方を考える	教材 評論『「私」中心の日本語』 指導内容 評論文の読み方／現代的なコミュニケーションと自我の関係／段落構成と論理展開 端末活用 文中の外來語を調べる	○	○						7
	定期考査					○	○			1
	単元 評論を読んで考える① 【知識及び技能】 現代言語学の基礎について知る 【思考力、判断力、表現力等】 表現様式の変化や社会との関わりを美術史から読み解き考える 【学びに向かう力、人間性等】 言語全般に興味を広げる	教材 評論『手の変幻』 指導内容 現代的な「美」に対し、どのような見方で認識するか／段落構成と論理構造 端末活用 教材に準じ、端末上で相互に例を出し合ってみる 学びのふりかえりシート作成	○	○						7
	単元 国語表現の基礎① 【知識及び技能】 表記等、表現の基礎事項の確認 【思考力、判断力、表現力等】 他者に伝えるための表現を学ぶ 【学びに向かう力、人間性等】 「他者のために伝える」という基本姿勢を学ぶ	副教材「国語表現の基礎」 指導内容 仮名遣いや送り仮名の確認／原稿用紙の使い方の確認／簡単な伝達文の作成 端末活用 基礎的なアプリの使いかた 学びのふりかえりシート作成	○	○						6
定期考査					○	○			1	
2 学期	単元 コミュニケーション技術 【知識及び技能】 調査に基づきプレゼンを行う 【思考力、判断力、表現力等】 プレゼンを行いそれを傾聴する 【学びに向かう力、人間性等】 クラスメートのプレゼンを傾聴する／学びを言語化する	タスク プレゼンテーション 指導内容 夏季休業課題として課した調査と発表を全員分行う／傾聴スキルについて指導する 端末活用 端末を用いてプレゼンを行う 学びのふりかえりシート作成	○	○						6
	単元 評論を読んで考える② 【知識及び技能】 監視社会の中での個人認証という概念を身につける 【思考力、判断力、表現力等】 筆者の意見に対して自分の意見を持つ 【学びに向かう力、人間性等】 社会に対する問題意識を持つ	教材 評論『なぜ多様性が必要か』 指導内容 「自由競争」「社会資本」「リベラル言説」についての評論を読む 端末活用 例示された言説を実際に読む 学びのふりかえりシート作成	○	○						8
	定期考査					○	○			1
	単元 論理的な文章を読んで考える③ 【知識及び技能】 「テクノロジー」の社会にもたらす効用と問題を多角的な視点から知る 【思考力、判断力、表現力等】 個人認証技術のメリットデメリットについての思考を深める 【学びに向かう力、人間性等】 言語全般に興味を広げる	教材 評論『生体認証技術の発展と未来』 指導内容 人間とテクノロジーとの向き合い方について私生活の面と、思想的側面から理解する 端末活用 個人認証について更に調べる 学びのふりかえりシート作成	○	○						8
	単元 コミュニケーション技術 【知識及び技能】 論理的な伝達文を作成する 【思考力、判断力、表現力等】 定型の文章を書く力を養う 【学びに向かう力、人間性等】 「他者のために伝える」という基本姿勢を学ぶ	教材 5パラグラフ作文 指導内容 5パラグラフの定型作文／実作可能ならば発表 端末活用 特になし 学びのふりかえりシート作成（可能ならば今回の学びを5パラグラフで書く）	○	○						5
定期考査					○	○			1	
3 学期	単元 表現の学習—実践— 【知識及び技能】 話し合いの進め方のルールを理解する 【思考力、判断力、表現力等】 論点を共有したり考えを広げたり深めたりしながら話し合いの実践を行う 【学びに向かう力、人間性等】 合意形成の話し合いについて関心を持つ	教材 デイバートプリント 指導内容 議論が収束するような議題の設定と「広げ」「深める」テーマ設定にふさわしい題材を整理する 端末活用 互いに知識を出し合って共有 学びのふりかえりシート作成	○	○						12
	定期考査					○	○			1
									合計	70

高等学校 令和5年度（2学年用） 教科 国語 科目 古典探究

教科：国語

科目：古典探究

単位数：3 単位

対象学年組：第2学年 A組～H組

使用教科書：（高等学校 精選 古典探究（第一学習社））

教科 国語

の目標：

【知識及び技能】生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に對

【思考力、判断力、表現力等】論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通して先人のものを見

【学びに向かう力、人間性等】言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語

科目 古典探究

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けていくとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めている。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、古典に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深めようとしている。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域		評価規準	知	思	態	配当 時数	
		語	書						
1 学 期	単元 説話（一） 【知識及び技能】 語句の意味や用法を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 展開を的確に捉える。 【学びに向かう力、人間性等】 説話の特質の理解を深める。	教材 『古今著聞集』 指導内容 説話について知る/活用 の復習 端末活用 学びのふりかえりシート作成	○	○	・著名な和歌にまつわる語を読み、説話として語り伝えられた背景事情について理解を深める。 ・説話という文章の種類や古典特有の表現に注意して、展開や内容を的確に捉える。 ・語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 ・古典の作品や文章に表れる表現の特色、主として和歌の修辭について理解を深める。	○	○	○	8
	単元 故事・高話 【知識及び技能】 語句の意味や用法を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 構成や展開を的確に捉える。 【学びに向かう力、人間性等】 内容を説明する。	教材 推散（唐詩紀事） 書き下し文にする/内容を理解する 端末活用 古典導入教材（スタディサプリ） 学びのふりかえりシート作成	○	○	・現在使われている言葉の由来となった漢文を読み、漢文が日本語に与えた影響について理解を深める。 ・故事・高話という文章の種類をふまえて、構成や展開を的確に捉える。 ・語句の量を増やし、語彙を豊かにする。	○	○	○	7
	定期考査					○	○		1
	単元 随筆（一） 【知識及び技能】 古文の読解のための技能習得に進む。 【思考力、判断力、表現力等】 作品に現れる人間観に触れる。 【学びに向かう力、人間性等】 積極的に古文学習意欲をもつ。	教材 『徒然草』、『方丈記』 指導内容 音読/内容理解/文法事項の学習 端末活用 文学史的な知識を検索してまとめる 学びのふりかえりシート作成	○	○	・争乱と政変の時代を生きた作者の、世の諸事象に向けた批評の目を通して、ものの見方や考え方を深める。 ・鎌倉初期という時代の転換期に作者が抱いた、人の世に対する思いを通して、ものの見方や考え方を深める。 ・和漢混雑文で書かれた随筆という文章の種類や古典特有の表現に注意して、構成や展開、内容を的確に捉える。	○	○	○	11
2 学 期	単元 物語（一） 【知識及び技能】 語感を磨き語彙を豊かにする。 【思考力、判断力、表現力等】 構成や展開を的確に捉える。 【学びに向かう力、人間性等】 歌物語の内容を捉えている。	教材 『伊勢物語』『大和物語』 指導内容 音読/内容理解/文法事項/隠喩やイメージ・モチーフを読み取る 端末活用 アプリを用い、受け取りや読後感などの意見交換 学びのふりかえりシート作成	○	○	・古文に慣れ、スムーズに音読できる ・対訳を読みながら、作品の内容を把握できる ・初歩的な文法事項（品詞の種類など）について理解できる ・抽象的、幻想的な作品世界を理解できる ・読み取った内容をもとに、自分の受け取りを言語化できる ・より一層文学的な表現に興味を持つ	○	○	○	10
	定期考査				○	○		1	
	単元 随筆（二） 【知識及び技能】 より正確に古文を読む。 【思考力、判断力、表現力等】 随筆に表される筆者の感性や考え方を捉え取り、自分の考えを述べる。 【学びに向かう力、人間性等】 時代への理解を深めようとしている。	教材 『枕草子』 指導内容 音読/内容理解/文法事項（用語）/筆者の価値観や考え方、感性 端末活用 文法学習（スタディサプリ）/読後の意見交換 学びのふりかえりシート作成	○	○	・古文に慣れ、スムーズに音読できる ・対訳を読みながら、作品の内容を把握できる ・文法事項（助動詞）について理解できる ・当時の感覚や価値観と、現代の価値観とを比較しながら、共通項や違いについてまとめ、自分の考えを述べられる ・古典作品のユーモアや美意識にある現代との共通性を知り、関心を深めようとしている	○	○	○	9
	単元 物語（二） 【知識及び技能】 より正確に古文を読む。 【思考力、判断力、表現力等】 当時の感じ方をとらえる。 【学びに向かう力、人間性等】 時代への理解を深めようとしている。	教材 『大鏡』 指導内容 音読/内容理解/文法事項/時代背景の理解 端末活用 読後の意見交換 学びのふりかえりシート作成	○	○	・歴史物語という、実際の歴史に取材した物語を読み、宮中を中心とする権力者たちの姿の一端に触れる。 ・歴史物語という文章の種類や古典特有の表現に注意して、構成や展開、内容を的確に捉える。	○	○	○	11
3 学 期	定期考査				○	○		1	
	単元 物語（二） 【知識及び技能】 より正確に古文を読む。 【思考力、判断力、表現力等】 和歌が教養の中心である時代を想像し、当時の感じ方を捉える。 【学びに向かう力、人間性等】 時代への理解を深めている。	教材 『源氏物語』 指導内容 音読/内容理解/和歌の理解/文法事項/時代背景の理解 端末活用 読後の意見交換 学びのふりかえりシート作成	○	○	・古文に慣れ、スムーズに音読できる ・対訳を読みながら、作品の内容を把握できる ・文法事項（助動詞）について理解できる ・当時の感覚や価値観と、現代の価値観とを比較しながら、共通項や違いについてまとめ、自分の考えを述べられる ・古典作品のユーモアや美意識にある現代との共通性を知り、関心を深めようとしている	○	○	○	14
	単元 物語（四） 【知識及び技能】 より正確に古文を読む。 【思考力、判断力、表現力等】 和歌が教養の中心である時代を想像し、当時の感じ方を捉える。 【学びに向かう力、人間性等】 時代への理解を深めている。	教材 『源氏物語』 指導内容 音読/内容理解/和歌の理解/文法事項/時代背景の理解 端末活用 読後の意見交換 学びのふりかえりシート作成	○	○	・古文に慣れ、スムーズに音読できる ・対訳を読みながら、作品の内容を把握できる ・文法事項（助動詞）について理解できる ・当時の感覚や価値観と、現代の価値観とを比較しながら、共通項や違いについてまとめ、自分の考えを述べられる ・古典作品のユーモアや美意識にある現代との共通性を知り、関心を深めようとしている	○	○	○	9
	定期考査				○	○		1	
3 学 期	単元 項羽と劉邦 【知識及び技能】 語感を磨き語彙を豊かにする。 【思考力、判断力、表現力等】 構成や展開を的確に捉える。 【学びに向かう力、人間性等】 各場面の展開を整理し、登場人物の言動から、それぞれの心情や性格を進んで捉えている。	教材 『鴻門之会』・『四面楚歌』 指導内容 音読/内容理解/時代背景の理解 端末活用 歌の背景の調査 学びのふりかえりシート作成	○	○	・登場人物の描写を読み解くことを通して、戦乱の時代を生きた人々の人物像について考察を深める。 ・追い詰められていく項王の心境を読み取り、人間の生き方についての考えを深める。 ・史伝という文章の種類をふまえて、構成や展開を的確に捉える。	○	○	○	21
	定期考査				○	○		1	
								合計	105

高等学校 令和5年度（2学年用） 教科 公民 科目 公共

教科：公民 科目：公共 単位数：2 単位

対象学年組：第2学年 A組～H組

使用教科書：（『高等学校 公共』（第一学習社））

教科 公民  
 の目標： 社会的な見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。  
 【知識及び技能】 選択・判断の手掛かりとなる概念や理論及び倫理、政治、経済などに関わる現代の諸課題について理解するとともに、諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。  
 【思考力、判断力、表現力等】 現代の諸課題について、事実を基に概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、解決に向けて公正に判断よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、人間としての在り方生き方についての自覚や、国民主権を担う公民  
 【学びに向かう力、人間性等】  
 科目 公共  
 の目標： 人間と社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し、判断する力を養う。	現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚する人間性を培う。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
第1編 公共の原 第1章 公共的な空間をつくる私たち 【主体的に学習に取り組む態度】 自らを成長させながら、社会の中で生きていくための人生観、世界観ないし価値観の基礎を培うことの重要性を理解させる。	社会に生きる私たち：青年期の心理には、どのような特徴があるのだろうか。「おとな」になるとは個人と自立・自立多様性と共通性 キャリア形成と自己実現 伝統や文化とのかかわり	【知識・技能】 自らの体験などを振り返り、自らを成長させる人間としての在り方生き方について理解できる。 【思考・判断・表現】 青年期の意味を考えさせることを通じて、他者とともに生きる自らの生き方について多面的・多角的に考察し、自分の考えを表現している。	○	○	○	4
第2章 公共的な空間における人間としての在り方生き方 【主体的に学習に取り組む態度】 主張の根底にある考え方の理解をもとに、課題を主体的に追究、解決させる。	人間と社会のあり方についての見方・考え方 実社会の事例から考える～環境保護・生命倫理	【知識・技能】 古今東西の先人の取り組み、知恵などを踏まえ、社会に参画する際の選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論を理解できる。 【思考・判断・表現】 選択・判断の手掛かりとなる考え方を活用し、環境保護や生命倫理などの実社会の問題を考察し、表現できる。	○	○	○	4
第3章 公共的な空間における基本的原理 【主体的に学習に取り組む態度】 人間の尊厳が守られるために必要なことについてじぶんにできることは何かを考え、取り組ませる。	公共的な空間を形成するための考え方 よりよく生きる行為者として活動するために  人間の尊厳と平等 個人の尊重 民主政治の基本的原理 法の支配	【知識・技能】 古今東西の先人の取り組み、知恵などを踏まえ、公共的な空間における基本的原理を理解できる。 【思考・判断・表現】 なぜ人間の尊厳が守られることが必要かを考察し、表現できる。	○	○	○	6
中間考査			○	○		1
1 学期 【主体的に学習に取り組む態度】 立憲主義の考え方に基いて、日本国憲法と現代政治のあり方との関連について主体的に追究させる。 第2編 自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち第1章 法的な主体となる私たち 【主体的に学習に取り組む態度】 すべての人の基本的人権を守り、確保させようとする態度を身に付けさせる。	自由・権利と責任・義務 世界のおもな政治体制 日本国憲法に生きる基本原理  主題1 法や規範の意義と役割 私たちの生活と法 法と基本的人権 自由・平等と法・規範	【知識・技能】 国のあらゆる法の基盤となる最高法規であるという立憲主義の考え方とその現代的な意味を理解できる。 【思考・判断・表現】 民主主義の問題点について、多数者の専制を考察する活動を通して、多面的・多角的に考察し、表現できる。 【知識・技能】 法やルールを定める時には、どのようなことに配慮する必要があるかを理解できる。 【思考・判断・表現】 身のまわりの偏見や差別・不平等、自由権が保障されていない問題について理解し、その解決策を考えることができる。	○	○	○	6
【主体的に学習に取り組む態度】 18歳で成年になる意義をふまえて、契約の意味や責任を負うことについて学び、自分にとって必要な契約かを慎重に考えさせる。	法をよりよくかえていくために  主題2 契約と消費者の権利と責任 さまざまな契約と法 消費者の権利と責任	【知識・技能】 契約自由の原則の内容や、契約によって様々な責任が生じることを理解している。 【思考・判断・表現】 契約自由の原則に例外があるのはなぜか、考察できる。	○	○	○	6
【主体的に学習に取り組む態度】 最高裁が「憲法の番人」と呼ばれていることや、国民の権利を守るために三権分立のしくみが採用されていることなどの理解を通して、法の支配を実現するために、公共的な空間をつくる自立した主体としての自覚をもたせる。	主題3 司法参加の意義 裁判所と人権保障	【知識・技能】 公正な裁判を確保するために、司法権および裁判官の独立が保障されていることを理解している。 【思考・判断・表現】 公正かつ慎重な裁判をおこなうために、日本の裁判では三審制が採用されていることを考察できる。	○	○	○	5
期末考査			○	○		1



高等学校 令和5年度(2学年用) 教科 地理歴史 科目 地理総合

教科：地理歴史 科目：地理総合 単位数：2 単位

対象学年組：第2学年 A組～ H組

使用教科書：(高等学校 新地理総合(帝国書院)、新詳高等地図(帝国書院))

教科 地理歴史 の目標：  
 【知識及び技能】 地理・歴史の概要を理解し、情報を整理し適切に調べる力を身に付ける。  
 【思考力、判断力、表現力等】 学習した地理・歴史的事象を多面的・多角的に考察し、自己の意見をふまえて表現する力を養う。  
 【学びに向かう力、人間性等】 学習した地理・歴史的事象について、よりよい社会の実現を視野に、課題に主体的に取り組む態度を養う。

科目 地理総合 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
世界の生活文化の多様性や、地球的課題とそれに対する取組、防災への地域的取組を理解するとともに、多様な地図や地理情報システム(GIS)を用いて、諸資料から地理に関する情報を適切かつ効果的に調査し、まとめる技能を身に付けることができる。	地理的事象の意味、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などの地理的見方・考え方に着目し、概念を活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりする力を身に付けることができる。	地理的事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとするこの大切さについての自覚などを深めることができる。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数	
1 学 期	<p>単元 地球上の位置と時差</p> <p>【知識及び技能】 緯度・経度、時差のしくみについて理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 緯度の違いや時差が私たちの生活に与える影響について考え、表現する。 【学びに向かう力、人間性等】 学習課題に積極的に取り組む。</p>	<p>・問い 地球上の位置の違いは、私たちの生活にどのような影響を与えているのだろうか。また、時差は私たちの生活とどのように結び付いているのだろうか。 ・指導事項 緯度・経度、時差とその計算 ・一人1台端末の活用 GISの活用</p>	<p>【知識・技能】 緯度・経度の基本的なしくみ、緯度の違いが生活に与える影響について理解している。 【思考・判断・表現】 緯度・経度の基本的なしくみ、緯度の違いが生活に与える影響について、多面的・多角的に考察し、表現している。</p>	○	○		3
	<p>単元 地図の種類と役割</p> <p>【知識及び技能】 地図や地理情報システムの種類や役割について理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 地理情報の表現及び読み取りを通してその特徴について考察する。 【学びに向かう力、人間性等】 学習課題に積極的に取り組む。</p>	<p>・問い 地図や地理情報システムにはどのような役割や種類があるのだろうか。また、私たちの生活にどのように役立っているのだろうか。 ・指導事項 図法、地形図、GIS ・一人1台端末の活用 GISの活用・地図の作成</p>	<p>【知識・技能】 地図や地理情報システムの種類や役割、主な活用場面について理解している。 【思考・判断・表現】 様々な地図から地理情報を読み取り、多面的多角的に考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 地理情報システム(GIS)のしくみやこれを支える技術、GISの活用場面について、課題を主体的に追究、解決しようとしている。</p>	○	○	○	3
	定期考査		○	○		1	
	<p>単元 現代世界の国家と領域</p> <p>【知識・技能】 国境の種類、国家の領域、国家の主権、日本の領土問題について理解する。 【思考・判断・表現】 国境の種類、国家の領域、国家の主権、日本の領土問題について、多面的・多角的に考察できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 学習課題に積極的に取り組む。</p>	<p>・問い 国家の領域や国境はどのように定まっているのだろうか。また、日本の位置や領域にはどのような特徴があるのだろうか。 ・指導事項 領土、主権、日本の領土、領土問題 ・一人1台端末の活用 GISの活用</p>	<p>【知識・技能】 国境の種類、国家の領域、国家の主権、日本の領土問題について理解している。 【思考・判断・表現】 国境の種類、国家の領域、国家の主権、日本の領土問題について、多面的・多角的に考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 国境の種類、国家の領域、国家の主権、日本の領土問題について、課題を主体的に追究、解決しようとしている。</p>	○	○	○	2
	<p>単元 世界の地形と人々</p> <p>【知識及び技能】 様々な地形の種類とその特徴について理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 様々な地形と人々の生活とのかかわりについて考察する。 【学びに向かう力、人間性等】 学習課題に積極的に取り組む。</p>	<p>・問い 人々はこうした地形とどのように関わり合っているのだろうか。世界各地ではどのような生活が営まれているのだろうか。 ・指導事項 大地形・小地形 ・一人1台端末の活用 GISの活用</p>	<p>【知識・技能】 様々な地形の種類とその特徴について理解できる。 【思考・判断・表現】 様々な地形の種類とその特徴について多面的・多角的に考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 様々な地形の種類とその特徴について、課題を主体的に追究、解決しようとしている。</p>	○	○	○	7
	定期考査		○	○		1	
2 学 期	<p>単元 世界の気候と人々</p> <p>【知識及び技能】 各地の気候とその特徴について理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 各地の気候と人々の生活とのかかわりについて考察し、表現する。 【学びに向かう力、人間性等】 学習課題に積極的に取り組む。</p>	<p>・問い 人々の生活はそれぞれの気候要素とどのように関わり合っているのだろうか。世界各地ではどのような生活が営まれているのだろうか。 ・指導事項 気温、降水、風、植生、気候区分 ・一人1台端末の活用 GISの活用</p>	<p>【知識・技能】 各地の気候とその特徴について理解できる。 【思考・判断・表現】 各地の気候とその特徴について多面的・多角的に考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 各地の気候とその特徴について、課題を主体的に追究、解決しようとしている。</p>	○	○	○	7
	<p>単元 世界の言語・宗教</p> <p>【知識及び技能】 言語と民族の関わり、宗教と人々の生活への影響について理解する。 【思考・判断・表現】 言語と民族の関わり、宗教と人々の生活への影響について考察し、表現する。 【学びに向かう力、人間性等】 学習課題に積極的に取り組む。</p>	<p>・問い 言語や宗教は、人々の生活にどのような影響を与えているのだろうか。 ・指導事項 言語、宗教 ・一人1台端末の活用 GISの活用</p>	<p>【知識・技能】 言語と民族の関わり、宗教と人々の生活への影響について理解している。 【思考・判断・表現】 言語と民族の関わり、宗教と人々の生活への影響について、多面的・多角的に考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 言語と民族の関わり、宗教と人々の生活への影響について、課題を主体的に追究、解決しようとしている。</p>	○	○	○	4
	定期考査		○	○		1	

2 学 期	<p>単元 地球的課題と国際協力</p> <p>【知識・技能】 SDGsや地球的課題の各地で共通する傾向性や課題相互の関連性などについて大観し理解する。</p> <p>【思考・判断・表現】 地域の結び付きや持続可能な社会づくりなどに着目して、主題を設定し、考察・表現する。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 学習課題に積極的に取り組む。</p>	<p>・問い 地球的課題の背景には何があるのだろうか。また、課題の解決に向けて、私たちには何ができるのだろうか。</p> <p>・指導事項 SDGs、エネルギー資源、人口問題、食糧問題、貧困問題、都市・居住問題 ・一人1台端末の活用 GISの活用</p>	<p>【知識・技能】 SDGsや地球的課題の諸問題について理解している。</p> <p>【思考・判断・表現】 SDGsや地球的課題の諸問題について、多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 SDGsや地球的課題の諸問題について、課題を主体的に追究、解決しようとしている。</p>	○	○	○	10
	定期考査			○	○		1
3 学 期	<p>単元 自然環境と防災 生活圏の調査と地域の展望</p> <p>【知識・技能】 我が国をはじめ世界で見られる自然災害や生徒の生活圏で見られる自然災害を基に、地域の自然環境の特色と自然災害への備えや対応との関わりとともに、自然災害の規模や頻度、地域性を踏まえた備えや対応の重要性などについて理解する。</p> <p>【思考・判断・表現】 地域性を踏まえた防災について、自然及び社会的条件との関わり、地域の共通点や差異、持続可能な地域づくりなどに着目して、主題を設定し、自然災害への備えや対応などを多面的・多角的に考察し、表現する。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 学習課題に積極的に取り組む。</p>	<p>・問い 日本や世界の地形や気候には、どのような特徴があるのだろうか。また、それらと自然災害にはどのような関係があり、どのような被害をもたらすのだろうか。自然災害の発生に備えてどのような取組が必要なのだろうか。</p> <p>・指導事項 SDGs、エネルギー資源、人口問題、食糧問題、貧困問題、都市・居住問題 ・一人1台端末の活用 GISの活用</p>	<p>【知識・技能】 各地で見られる自然災害とそれに対する備えや対応について理解している。</p> <p>【思考・判断・表現】 各地で見られる自然災害とそれに対する備えや対応について、多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 地域性を踏まえた防災について、自然及び社会的条件との関わり、地域の共通点や差異、持続可能な地域づくりなどに着目して、主題を設定し、自然災害への備えや対応などを多面的・多角的に考察し、表現している。</p>	○	○	○	15
	定期考査			○	○		1
合計							
56							

高等学校 令和5年度（2学年用） 教科 地理歴史 科目 日本史探究

教科：地理歴史 科目：日本史探究

単位数：3 単位

対象学年組：第2学年 A C D E G H 組

使用教科書：（詳説日本史 山川出版社）

教科 地理歴史 の目標：

【知識及び技能】地理・歴史の概要を理解し、情報を整理し適切に調べる力を身に着ける。

【思考力、判断力、表現力等】学習した地理・歴史的事象を多面的・多角的に考察し、自己の意見を踏まえて表現する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】学習した地理・歴史的事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に取り組み態度を養う。

科目 日本史探究 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
先史・古代から近世はじめまでの日本史の概要を理解し、情報を整理し適切に調べる力を身に着ける。	学習した日本の歴史的事象を多面的・多角的に考察し、自己の意見を踏まえて表現する力を養う。	学習した日本の歴史的事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に取り組み態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配 当 時 数
1 学 期	旧石器文化から縄文文化への変 化、弥生文化の成立にいたる時期 の歴史的環境と文化の形成とを関 連付けて理解し、多面的・多角 的に考察する。	・導入：日本史学習について ・文化のはじまり （旧石器時代・縄文文化） ・農耕社会の成立 （弥生文化・小国の分立 ・邪馬台国）	【知識・技能】 旧石器時代～弥生時代の歴史の流れを総合 的に理解し効果的に調べる技能が身につ ている。 【思考・判断・表現】 上記の歴史的事象を多面的・多角的に考察 し説明・表現する力を身につけている。 【主体的に学習に取り組む態度】 上記の歴史的事象をよりよい社会の実現の ために主体的に追求しようとする態度を持 っている。	○	○	○	8
	ヤマト朝廷と古墳文化の展開、飛 鳥朝廷と仏教文化の興隆につ いて、歴史的環境と文化の形成とを 関連付けて理解し、多面的・多角 的に考察する。	・古墳文化の展開 （古墳の出現と大和政権・東アジア諸国との交 渉と大陸文化受容・ヤマト政権と政治制度） ・飛鳥の朝廷 （東アジアの動向・飛鳥朝廷と文化） ・農耕社会の成立 （弥生文化・小国の分立 ・邪馬台国）	【知識・技能】 ヤマト朝廷と古墳文化・飛鳥朝廷と仏教文 化の歴史の流れを総合的に理解し効果的に調 べる技能が身につけている。 【思考・判断・表現】 上記の歴史的事象を多面的・多角的に考察 し説明・表現する力を身につけている。 【主体的に学習に取り組む態度】 上記の歴史的事象をよりよい社会の実現の ために主体的に追求しようとする態度を持 っている。	○	○	○	6
	中間考査			○	○		1
	大化改新から壬申の乱までの政治 の流れと律令制度、平城京と奈良 時代の政治、白鳳・天平文化につ いて歴史的環境と文化の形成とを 関連付けて理解し、多面的・多角 的に考察する。	・律令国家への道 （大化改新・律令制度と官僚制・民衆の負担） ・平城京の時代 （遣唐使・平城京・藤原氏の進出と政界の動 揺） ・律令国家の文化 （白鳳文化・天平文化）	【知識・技能】 大化改新から壬申の乱までの政治の流れと 律令制度、平城京と奈良時代の政治、白鳳・ 天平文の歴史の流れを総合的に理解し効果的 に調べる技能が身につけている。 【思考・判断・表現】 上記の歴史的事象を多面的・多角的に考察 し説明・表現する力を身につけている。 【主体的に学習に取り組む態度】 上記の歴史的事象をよりよい社会の実現の ために主体的に追求しようとする態度を持 っている。	○	○	○	10
	期末考査			○	○		1
2 学 期	平安初期の政治改革、地方と貴族 社会の変容、平安新仏教と弘仁貞 観文化、摂関政治と国風文化につ いて歴史的環境と文化の形成とを 関連付けて理解し、多面的・多角 的に考察する。	・律令国家の変容 （平安遷都・蝦夷との闘い・平安初期の政治改 革・地方と貴族社会の変容・唐風文化と平安仏 教） ・貴族社会の展開 （藤原北家の発展・摂関政治・国際関係の変 化） ・国風文化 （国文学の発達・浄土の信仰・国風美術）	【知識・技能】 平安初期の政治改革、地方と貴族社会の変 容、平安新仏教と弘仁貞観文化、摂関政治と 国風文化について歴史の流れを総合的に理解 し効果的に調べる技能が身につけている。 【思考・判断・表現】 上記の歴史的事象を多面的・多角的に考察 し説明・表現する力を身につけている。 【主体的に学習に取り組む態度】 上記の歴史的事象をよりよい社会の実現の ために主体的に追求しようとする態度を持 っている。	○	○	○	8
	地方政治の混乱と武士の台頭、荘 園制の発達、平将門・藤原純友の 乱について歴史的環境と文化の形 成とを関連付けて理解し、多面 的・多角的に考察する。	・地方政治の展開と武士 （荘園の発達・地方の反乱と武士の成長）	【知識・技能】 地方政治の混乱と武士の台頭、荘園制の発 達、平将門・藤原純友の乱について歴史の流 れを総合的に理解し効果的に調べる技能が身 に身につけている。 【思考・判断・表現】 上記の歴史的事象を多面的・多角的に考察 し説明・表現する力を身につけている。 【主体的に学習に取り組む態度】 上記の歴史的事象をよりよい社会の実現の ために主体的に追求しようとする態度を持 っている。	○	○	○	4
	中間考査			○	○		1





高等学校 令和5年度（2学年用） 教科

数学 科目 数学Ⅱ

教科： 数学

科目： 数学Ⅱ

単位数： 4 単位

対象学年組： 第 2 学年 A 組～ H 組

使用教科書： ( 理系：数学Ⅱ（数研出版） 文系：新編数学Ⅱ（数研出版） )

教科 数学

の目標：

【知識及び技能】

数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解する。事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付ける。

【思考力、判断力、表現力等】

数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付ける。

【学びに向かう力、人間性等】

数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断したりしようとしたりする。問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとしたりする。

科目 数学Ⅱ

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
数と式、図形と計量、2次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付ける。	数や式を多面的にみたり適切に変形する力、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、事象の特徴を表、式、グラフを関連付けて考察する力、社会の事象などから設定した問題について分析し、解決の過程や結果を考察し判断する力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	配当			
				知	思	態	時数
1 学 期	単元 「式と計算」 【知識及び技能】 多項式の割り算において、商と余りの関係を確認し、分数式も目的に応じて整理できる。 【思考力、判断力、表現力等】 複雑な式も、既習内容を組み合わせるなどして適切に変形できる。 【学びに向かう力、人間性等】 既に学習した計算の方法と関連付けて、多面的に捉えたり、目的に応じて適切に変形できる。	・指導事項 基本的な概念・原理・法則の解説、問題演習、小テスト、課題提出 ・教材 「4プロセス 数学Ⅱ」「3Trial 数学Ⅱ」 「練習ドリル 数学Ⅱ」 ・一人1台端末の活用 タブレットを用いた多面的理解及び自己の考察の発表	【知識・技能】 分数式も分数同様に計算でき、特徴に着目して変形し、展開や因数分解の公式を適用することができる。 【思考・判断・表現】 二項定理について理解し、複雑な式についても、活用できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 より高次な式への応用、整理などの工夫において、よりよい方法を考察しようとしている。	○	○	○	10
	単元 「等式と不等式の証明」 【知識及び技能】 既習の式において成り立つ式を、証明することの理解を深め、論理的展開ができるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】 等式・不等式の証明方法を学び、適切に表現できるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】 論理的な考え方を、その表現について考察する。	・指導事項 基本的な概念・原理・法則の解説、問題演習、小テスト、課題提出 ・教材 「4プロセス 数学Ⅱ」「3Trial 数学Ⅱ」 「練習ドリル 数学Ⅱ」 ・一人1台端末の活用 タブレットを用いた多面的理解及び自己の考察の発表	【知識・技能】 根号を含む式の加法、減法、乗法の計算ができ、分母の有理化ができる。 【思考・判断・表現】 実数を数直線上の点の座標として捉えられる。また、実数の大小関係と数直線と関係づけて考察することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 対称式の値の求め方や循環小数が分数で表現できることに興味を示し、自ら考察しようとしている。	○	○	○	9
	定期考査			○	○	○	1
	単元 「複素数と2次方程式の解」 【知識及び技能】 2次方程式の解の意味や複素数の性質について理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 複素数の性質を基に、2次方程式を解く方法を考察する。 【学びに向かう力、人間性等】 具体的な事象に関連した課題の解決に2次方程式を工夫して活用する力を培う。	・指導事項 基本的な概念・原理・法則の解説、問題演習、小テスト、課題提出 ・教材 「4プロセス 数学Ⅱ」「3Trial 数学Ⅱ」 「練習ドリル 数学Ⅱ」 ・一人1台端末の活用 タブレットを用いた多面的理解及び自己の考察の発表	【知識・技能】 不等式における解の意味を理解し、1次不等式を解くことができる。 【思考・判断・表現】 絶対値記号を含むやや複雑な式についても、適切に絶対値記号をはずす処理ができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 日常的な事象に1次不等式が活用できることに興味をもち、考察しようとしている。	○	○	○	15
	単元 「高次方程式」 【知識及び技能】 集合と命題に関する基本的な概念を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 集合と命題に関する概念を事象の考察に活用できるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】 背理法を利用して命題を証明することができる。	・指導事項 基本的な概念・原理・法則の解説、問題演習、小テスト、課題提出 ・教材 「4プロセス 数学Ⅱ」「3Trial 数学Ⅱ」 「練習ドリル 数学Ⅱ」 ・一人1台端末の活用 タブレットを用いた多面的理解及び自己の考察の発表	【知識・技能】 集合とその表し方を理解している。 【思考・判断・表現】 命題の真偽を、集合の包含関係に結び付けてとらえることによって考察することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 直接証明法では難しい命題も、対偶を用いた証明法や背理法を用いると鮮やかに証明できることに興味・関心をもち、実際に証明しようとしている。	○	○	○	14
定期考査			○	○	○	1	

2 学 期	<p>単元 「2次関数とグラフ」</p> <p>【知識及び技能】 2次関数の値の変化やグラフの特徴を理解する。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 コンピュータなどの情報機器を用いて2次関数のグラフをかく。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 2次関数の式とグラフとの関係について、多面的に考察する。</p>	<p>・指導事項 基本的な概念・原理・法則の解説、問題演習、小テスト、課題提出</p> <p>・教材 「4プロセス 数学Ⅱ」「3Trial 数学Ⅱ」 「練習ドリル 数学Ⅱ」</p> <p>・一人1台端末の活用 タブレットを用いた多面的理解及び自己の考察の発表</p>	<p>【知識・技能】 平方完成を利用して、2次関数<math>y=[ax]^2+bx+c</math>のグラフの軸と頂点を調べ、グラフをかくことができる。</p> <p>【思考・判断・表現】 放物線の平行移動を、頂点の移動に着目して、考察することができる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 放物線のもつ性質に興味・関心を示し、自ら調べようとしている。</p>	○	○	○	13
	<p>単元 「2次関数の値の変化」</p> <p>【知識及び技能】 2次関数のグラフを通して関数の値の変化を考察する。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 2次関数の最大値や最小値を求めることができる。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 2次関数の最大・最小の考えを利用して日常生活における具体的な事象を考察する。</p>	<p>・指導事項 基本的な概念・原理・法則の解説、問題演習、小テスト、課題提出</p> <p>・教材 「4プロセス 数学Ⅱ」「3Trial 数学Ⅱ」 「練習ドリル 数学Ⅱ」</p> <p>・一人1台端末の活用 タブレットを用いた多面的理解及び自己の考察の発表</p>	<p>【知識・技能】 2次関数を<math>y=[a(x-p)]^2+q</math>の形に変形して、最大値、最小値を求めることができる。</p> <p>【思考・判断・表現】 定義域が変化するときや、グラフが動くときの最大値や最小値について、考察することができる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 日常生活における具体的な事象の考察に、2次関数の最大・最小の考えを活用しようとしている。</p>	○	○	○	15
	定期考査			○	○	○	1
	<p>単元 「2次方程式と2次不等式」</p> <p>【知識及び技能】 2次方程式や2次不等式の解と2次関数のグラフとの関係について理解する。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 2次関数のグラフを用いて2次不等式の解を求めることができる。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 身近にある具体的な問題を2次不等式で解決できる。</p>	<p>・指導事項 基本的な概念・原理・法則の解説、問題演習、小テスト、課題提出</p> <p>・教材 「4プロセス 数学Ⅱ」「3Trial 数学Ⅱ」 「練習ドリル 数学Ⅱ」</p> <p>・一人1台端末の活用 タブレットを用いた多面的理解及び自己の考察の発表</p>	<p>【知識・技能】 2次方程式・不等式を解くことができる。</p> <p>【思考・判断・表現】 2次式が一定の符号をとるための条件を、グラフと関連させて考察することができる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 2次関数で表される事象の具体例について興味をもち、考察しようとしている。</p>	○	○	○	18
	<p>単元 「三角比」</p> <p>【知識及び技能】 三角比の意味やその基本的な性質について理解する</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 三角比の相互関係などを理解できるようにする。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 日常の事象や社会の事象などを数学的にとらえ、三角比を活用して問題を解決する力を培う。</p>	<p>・指導事項 基本的な概念・原理・法則の解説、問題演習、小テスト、課題提出</p> <p>・教材 「4プロセス 数学Ⅱ」「3Trial 数学Ⅱ」 「練習ドリル 数学Ⅱ」</p> <p>・一人1台端末の活用 タブレットを用いた多面的理解及び自己の考察の発表</p>	<p>【知識・技能】 直角三角形の辺の長さを三角比で表す式を理解し、測量などの応用問題に利用できる。</p> <p>【思考・判断・表現】 三平方の定理をもとに三角比の相互関係を考察することができる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 tanθと直線の傾きの関係に興味をもち考察しようとしている。</p>	○	○	○	12
定期考査			○	○	○	1	
3 学 期	<p>単元 「三角形への応用」</p> <p>【知識及び技能】 正弦定理、余弦定理の意味を理解し利用することができる。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 正弦(余弦)定理や面積を求める公式を導くことができる。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 日常の事象や社会の事象などを数学的にとらえ、正弦定理、余弦定理などを活用して問題を解決する力を培う。</p>	<p>・指導事項 基本的な概念・原理・法則の解説、問題演習、小テスト、課題提出</p> <p>・教材 「4プロセス 数学Ⅱ」「3Trial 数学Ⅱ」 「練習ドリル 数学Ⅱ」</p> <p>・一人1台端末の活用 タブレットを用いた多面的理解及び自己の考察の発表</p>	<p>【知識・技能】 余弦定理や正弦定理を用いて、三角形の残りの辺の長さや角の大きさを求めることができる。</p> <p>【思考・判断・表現】 正弦定理、余弦定理を導くことができる。三角比と三角形の面積の関係を考察することができる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 正弦定理、余弦定理、三角形の内接円と面積の関係を導こうとする。日常の事象や社会の事象などに正弦定理や余弦定理を活用しようとしている。</p>	○	○	○	15
	<p>単元 「データの分析」</p> <p>【知識及び技能】 データの散らばり具合や傾向を数値化する方法を考察する力を養う。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 手法を選択してデータの分析を行い、事象の特徴を表現する力を養う。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 主張の妥当性について、実験を通して判断し、批判的に考察する力を養う。</p>	<p>・指導事項 基本的な概念・原理・法則の解説、問題演習、小テスト、課題提出</p> <p>・教材 「4プロセス 数学Ⅱ」「3Trial 数学Ⅱ」 「練習ドリル 数学Ⅱ」</p> <p>・一人1台端末の活用 タブレットを用いた多面的理解及び自己の考察の発表</p>	<p>【知識・技能】 データの代表値、分散、標準偏差の定義とその意味を理解し、計算して求めることができる。</p> <p>【思考・判断・表現】 データの散らばりの度合いをどのように数値化するかを考察することができる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 変量の変換によって、平均値や標準偏差がどのように変化するか、考察しようとしている。</p>	○	○	○	14
	定期考査			○	○	○	1
合計							
140							

高等学校 令和5年度(2学年用) 教科

数学

科目

数学B, 数学C

教科: 数学

科目: 数学B・C

単位数: 3 単位

対象学年組: 第 2 学年 B D F 組

使用教科書: 高等学校 数学B(数研出版), 高等学校 数学B(数研出版)

教科 数学

の目標:

【知識及び技能】

数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解する。事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付ける。

【思考力、判断力、表現力等】

数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付ける。

【学びに向かう力、人間性等】

数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断したりしようとしたりする。問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとしたりする。

科目 数学B, 数学C

の目標:

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
数列、統計的な推測についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と社会生活の関わりについて認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	離散的な変化の規則性に着目し、事象を数学的に表現し考察する力、確率分布や標本分布の性質に着目し、母集団の傾向を推測し判断したり、標本調査の方法や結果を批判的に考察したりする力、日常の事象や社会の事象を数学化し、問題を解決したり、解決の過程や結果を振り返って考察したりする力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとする態度や創造性の基礎を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	配当			
				知	思	態	時数
1 学 期	【等差数列と等比数列】 数列やその一般項の表し方について理解する。また、基本的な数列として等差数列と等比数列を理解し、それらの和を求められるようにする。また、これらの数列を様々な事象の考察に役立てようとする姿勢を養う。	・指導事項 基本的な概念・原理・法則の解説、問題演習、小テスト、課題提出 ・教材 「4プロセス 数学B」 「練習ドリル 数学B」 ・一人1台端末の活用 タブレットを用いた多面的理解及び自己の考察の発表	【知識】 ・等差数列・等比数列の仕組みから、一般項やその和を求めることができる。 【思考力】 ・等差数列・等比数列の仕組みから、一般項やその和を考えることができる。 【学びに向かう力】 ・等差数列・等比数列の仕組みに関心をもち、それらを一般項や和の考察に活用しようとする。	○	○	○	8
	【等差数列と等比数列】 数列やその一般項の表し方について理解する。また、基本的な数列として等差数列と等比数列を理解し、それらの和を求められるようにする。また、これらの数列を様々な事象の考察に役立てようとする姿勢を養う。	・指導事項 基本的な概念・原理・法則の解説、問題演習、小テスト、課題提出 ・教材 「4プロセス 数学B」 「練習ドリル 数学B」 ・一人1台端末の活用 タブレットを用いた多面的理解及び自己の考察の発表	【知識】 ・等差数列・等比数列の仕組みから、一般項やその和を求めることができる。 【思考力】 ・日常・社会の事象を数列として捉え、数列の考えを用いて考察できる。 【学びに向かう力】 ・等差数列・等比数列の仕組みに関心をもち、それらを一般項や和の考察に活用しようとする。	○	○	○	7
	定期考査			○	○	○	1
	【いろいろな数列】 和の記号Σの表し方や性質を理解し、活用できるようにする。また、いろいろな数列について、その一般項や和を求めたり、和から一般項を求めたりできるようにする。	・指導事項 基本的な概念・原理・法則の解説、問題演習、小テスト、課題提出 ・教材 「4プロセス 数学B」 「練習ドリル 数学B」 ・一人1台端末の活用 タブレットを用いた多面的理解及び自己の考察の発表	【知識】 ・いろいろな数列について、その規則性を見つけ、理解することができる。 ・数列の和をΣ記号を利用して表したり、その計算ができる。 【思考力】 ・数列の和において、Σ記号を利用して考察することができる。 【学びに向かう力】 ・いろいろな数列の規則性に関心をもち、それを一般項や和を求める考察に活用しようとする。	○	○	○	11
	【漸化式と数学的帰納法】 数列の帰納的な定義について理解し、漸化式から一般項が求められるようにするとともに、複雑な漸化式を既知のものに帰着して考えられるようにする。また、数学的帰納法の仕組みを理解し、様々な命題の証明に活用できるようにする。	・指導事項 基本的な概念・原理・法則の解説、問題演習、小テスト、課題提出 ・教材 「4プロセス 数学B」 「練習ドリル 数学B」 ・一人1台端末の活用 タブレットを用いた多面的理解及び自己の考察の発表	【知識】 ・漸化式の意味や、その仕組みを理解している。 【思考力】 ・漸化式から一般項を導く方法を考えることができる。 【学びに向かう力】 ・漸化式から一般項を導いたり、漸化式や数学的帰納法を事象の考察に活用しようとする。	○	○	○	10
定期考査			○	○	○	1	

2 学 期	<p>【確率分布】 確率変数と確率分布について理解し、期待値や分散、標準偏差などを求めることを通じて、分布の特徴を把握できるようにする。また、連続型確率変数についても理解し、正規分布を様々な日常の事象の考察に活用できるようにする。</p>	<p>・指導事項 基本的な概念・原理・法則の解説、問題演習、小テスト、課題提出 ・教材 「4プロセス 数学B」 「練習ドリル 数学B」 ・一人1台端末の活用 タブレットを用いた多面的理解及び自己の考察の発表</p>	<p>【知識】 ・確率分布において、その期待値、分散・標準偏差などの意味を理解している。 【思考力】 ・確率分布について、期待値、分散・標準偏差などを用いて、その傾向を的確に表現することができる。 【学びに向かう力】 ・確率分布について、期待値、分散・標準偏差などを用いて分布の傾向を把握し、それらを事象の考察に活用することができる。</p>	○	○	○	9
	<p>【確率分布】 確率変数と確率分布について理解し、期待値や分散、標準偏差などを求めることを通じて、分布の特徴を把握できるようにする。また、連続型確率変数についても理解し、正規分布を様々な日常の事象の考察に活用できるようにする。</p>	<p>・指導事項 基本的な概念・原理・法則の解説、問題演習、小テスト、課題提出 ・教材 「4プロセス 数学B」 「練習ドリル 数学B」 ・一人1台端末の活用 タブレットを用いた多面的理解及び自己の考察の発表</p>	<p>【知識】 ・確率分布について、期待値、分散・標準偏差などを求めることができる。 【思考力】 ・確率分布について、期待値、分散・標準偏差などを用いて、その傾向を的確に表現することができる。 【学びに向かう力】 ・確率分布について、期待値、分散・標準偏差などを用いて分布の傾向を把握し、それらを事象の考察に活用することができる。</p>	○	○	○	11
	定期考査			○	○	○	1
	<p>【統計的な推測】 母集団と標本、標本平均について理解し、特に標本平均については、それが確率変数であることを正しく理解した上で考察できるようにする。また、母平均や母比率の推定、正規分布を用いた仮説検定ができるようにし、それらを日常の事象の考察や様々な判断に積極的に活用しようとする態度を育てる。</p>	<p>・指導事項 基本的な概念・原理・法則の解説、問題演習、小テスト、課題提出 ・教材 「4プロセス 数学B」 「練習ドリル 数学B」 ・一人1台端末の活用 タブレットを用いた多面的理解及び自己の考察の発表</p>	<p>【知識】 ・全数調査と標本調査の意味を理解している。 【思考力】 ・統計的な事象の考察に、標本調査を利用する考え方を身につけている。 【学びに向かう力】 ・標本調査について、統計的な事象の考察に活用することができる。</p>	○	○	○	14
	<p>【統計的な推測】 母集団と標本、標本平均について理解し、特に標本平均については、それが確率変数であることを正しく理解した上で考察できるようにする。また、母平均や母比率の推定、正規分布を用いた仮説検定ができるようにし、それらを日常の事象の考察や様々な判断に積極的に活用しようとする態度を育てる。</p>	<p>・指導事項 基本的な概念・原理・法則の解説、問題演習、小テスト、課題提出 ・教材 「4プロセス 数学B」 「練習ドリル 数学B」 ・一人1台端末の活用 タブレットを用いた多面的理解及び自己の考察の発表</p>	<p>【知識】 ・標本調査を利用して、標本平均の様子を調べることができる。 【思考力】 ・標本調査の方法や結果を批判的に考察することができる。 【学びに向かう力】 ・標本調査について、統計的な事象の考察に活用することができる。</p>	○	○	○	9
定期考査			○	○	○	1	
3 学 期	<p>【平面上のベクトル】 向きと大きさをもつ量としてのベクトルの意味およびその演算について理解し、成分表示も含めてベクトルの演算ができるようにする。また、ベクトルの内積について理解し、平面上のベクトルのなす角について考察できるようにする。</p>	<p>・指導事項 基本的な概念・原理・法則の解説、問題演習、小テスト、課題提出 ・教材 「4プロセス 数学B」 「練習ドリル 数学B」 ・一人1台端末の活用 タブレットを用いた多面的理解及び自己の考察の発表</p>	<p>【知識】 ・ベクトルの意味、相当、和、差、実数倍、位置ベクトル、内積、成分表示などを理解する。 【思考力】 ・ベクトルの演算法則を考察する。 ・位置ベクトルを用いて図形やその方程式を代数的に表現し、性質を考察することができる。 【学びに向かう力】 事象を数学的にとらえ、平面図形の問題解決に活用する。図形問題や直線の方程式をベクトルで表現する数学的な見方を養い、資格的に学ぼうとしている。</p>	○	○	○	11
	<p>【空間のベクトル】 ベクトルの概念が空間内においても適用できることに関心を示し、平面ベクトルと対比させながら、積極的に空間図形の問題に活用することができるようにする。</p>	<p>・指導事項 基本的な概念・原理・法則の解説、問題演習、小テスト、課題提出 ・教材 「4プロセス 数学B」 「練習ドリル 数学B」 ・一人1台端末の活用 タブレットを用いた多面的理解及び自己の考察の発表</p>	<p>【知識】 ・空間内での座標や位置ベクトルの表現を理解し、線分の分点、距離の公式、ベクトル方程式などの既知の知識を用いて事象の考察をすることができる。 【思考力】 空間および空間座標の表現を理解し、位置ベクトルを用いることで、空間内の直線、平面、球などの図形の性質を代数的に考察し、的確に表現・処理することができる。 【学びに向かう力】 平面ベクトルで学習した内容を拡張し、空間図形の問題解決に活用する。</p>	○	○	○	10
	定期考査			○	○	○	1
							合計
							105

年間授業計画 様式例

高等学校 令和5年度（2学年用） 教科 理科 科目 化学

教科： 理科 科目： 化学 単位数： 3 単位

対象学年組：第 2 学年 組～ 組

使用教科書：（ 化学703 「化学 academia」 実教出版、「アクセスノート化学 新課程版」 実教出版 ）

教科 理科

の目標：

- 【知識及び技能】 自然の事物・現象についての概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの技能を身に付ける。
- 【思考力、判断力、表現力等】 自然の事物・現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究する力を身に付ける。
- 【学びに向かう力、人間性等】 自然の事物・現象に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとする態度を身に付ける。

科目 化学

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
化学的な事物・現象についての観察、実験などを行うことを通して、化学の基本的な概念や原理・法則の理解を図るとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付ける。	化学的な事物・現象を対象に、探究の過程を通して、情報の収集、仮説の設定、実験の計画、実験による検証、実験データの分析・解釈など、探究の方法を習得する。また、報告書を作成したり発表したりして、科学的に探究する力を身に付ける。	化学的な事物・現象に対して主体的に関わり、それらに対する気付きから課題を設定し解決しようとする態度など、科学的に探究しようとする態度を身に付ける。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	意	配当 時数
序章 【知識及び技能】 ・化学は物質を対象とする学問であること理解させる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・生活と化学の関わり、化学による物質を探究する力を養う。 【学びに向かう力、人間性等】 ・これからの化学に関して興味関心を深めていく。	・指導事項 基本的な概念や原理・法則の解説、問題演習、小テスト、課題提出 ・教材 教科書・授業プリント・ワーク ・一人1台端末の活用 等 タブレットによる参考資料の配布	【知識・技能】 ・物質がどのように人間生活に関わり合いを持っているかを理解している。すでに学習している化学基礎との関連をしっかりと理解し、知識を身に付けている。 【思考・判断・表現】 ・日常生活について化学的なとらえ方をすることにより、安全で健康な生活など豊かになっていることに気づき、今後の人間生活と化学との関わりを考えることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・身近にある化学物質が、どんな組成・成分でできているかを、日常生活や社会に関連させ、探究、考察しようとする。 ・化学に関連している物質が、人間生活のどの場面で関連しているかを探究することができる。	○	○	○	3
第1章 物質の状態と平衡 1節 状態変化 2節 固体の構造 【知識及び技能】 ・物質の状態変化、状態間の平衡、溶解平衡および溶液の性質について理解させる。 ・物質の沸点、融点を分子間力や化学結合と関連させて理解させる。 ・結晶格子の概念および結晶の構造を理解させる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・物質の状態変化は、構成粒子の分子運動が関係していることや分子運動が温度・圧力によるものであることを論理的、総合的に判断できることを養う。 ・状態間の平衡について、気液平衡や蒸気圧を例に考察する力を養う。 ・固体の構造の示す性質などについて化学的に考察し、その考えを説明する力を養う。 【学びに向かう力、人間性等】 ・物質の状態変化を日常生活や社会に関連させ、探究、考察しようとする態度を養う	・指導事項 基本的な概念や原理・法則の解説、問題演習、小テスト、課題提出 ・教材 教科書・授業プリント・ワーク ・一人1台端末の活用 等 タブレットによる参考資料の配布	【知識・技能】 ・物質の沸点、融点を分子間力や化学結合と関連づけて理解している。また、状態変化に伴うエネルギーの出入りおよび状態間の平衡と温度や圧力との関係について理解している。 ・結晶格子の概念および結晶の構造について理解している。 ・結晶格子の概念について、身近な物質を例にしたり、結晶構造のモデルを用いたりして、特徴を観察する技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 ・物質の状態変化は、構成粒子の分子運動が関係していることや分子運動が温度・圧力によるものであることを論理的、総合的に判断できる。 ・状態間の平衡について、気液平衡や蒸気圧を例に考察することができる。 ・固体の構造の示す性質などについて化学的に考察し、その考えを説明することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・物質の状態変化を日常生活や社会に関連させ、探究、考察しようとする。 ・状態変化の現象について、粒子の運動と関連づけて探究しようとする。	○	○	○	12
定期考査 第1章 物質の状態と平衡 3節 気体の性質 4節 溶液 【知識及び技能】 ・気体の体積と圧力や温度との関係を理解させる。 ・溶液のしくみ、溶解度を溶解平衡と関連づけて理解させる。 ・身近な現象を通して溶媒と溶液の違いを理解させる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・気体の法則や希薄溶液の示す性質などについて化学的に考察し、その考えを説明することができるような力を養う。 【学びに向かう力、人間性等】 ・気体、液体、固体が示すさまざまな性質に着目し、共通の事象について規則性を予測しようとする力を養う。 ・気体が示す様々な性質に着目し、探究しようとする力を養う。	・指導事項 基本的な概念や原理・法則の解説、問題演習、小テスト、課題提出 ・教材 教科書・授業プリント・ワーク ・一人1台端末の活用 等 タブレットによる参考資料の配布	【知識・技能】 ・気体の体積と圧力や温度変化との関係を理解している。 ・溶液の性質の法則性、コロイド溶液に関する事象について理解し、知識を身に付けている。 ・実験においては、沸点や融点の測定には減圧下や加圧下での沸騰実験にも拡張し、実験の測定結果から量的関係を的確に表現できる。 【思考・判断・表現】 ・気体の法則や希薄溶液の示す性質などについて化学的に考察し、その考えを説明することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・気体、液体、固体が示すさまざまな性質に着目し、共通の事象について規則性を予測しようとする。 ・気体が示す様々な性質に着目し、探究しようとする。	○	○		1
第2章 物質の変化と平衡 1節 化学反応と熱・光エネルギー 2節 化学反応と電気エネルギー 【知識及び技能】 ・化学反応における熱および光の発生や吸収は、反応の前後における物質のもつ化学エネルギーの差から生じることを理解させる。 ・外部から加えられた電気エネルギーによって、電極で酸化還元反応が起こることを理解する。その反応に関与した変化量と電気量との関係を理解させる。 ・電池は酸化還元反応によって電気エネルギーを取り出すしくみであることを理解させる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・化学反応に伴って熱、光、電気エネルギーの出入りがあることを、代表的な物質の反応や性質の比較から推論することができる。また、導き出した考えを的確に表現する力を養う。 【学びに向かう力、人間性等】 ・化学反応に伴うさまざまなエネルギーの出入りがあること、温度・濃度・触媒などが反応の速さに影響することを意欲的に探究・考察しようとする力を養う。	・指導事項 基本的な概念や原理・法則の解説、問題演習、小テスト、課題提出 ・教材 教科書・授業プリント・ワーク ・一人1台端末の活用 等 タブレットによる参考資料の配布	【知識・技能】 ・化学反応における熱および光の発生や吸収は、反応前後における化学エネルギーの差から生じる事を理解している。 ・ヘスの法則について理解している。 ・化学発光や生物発光、光化学反応について理解している。 ・化学電池の仕組みについて理解している。 ・外部から加えた電気エネルギーによって、電極で酸化還元反応が起こること、また、その反応に関与した物質の変化量と電気量との関係を理解している。 【思考・判断・表現】 ・化学反応に伴って熱、光、電気エネルギーの出入りがあることを、代表的な物質の反応や性質の比較から推論することができる。また、導き出した考えを的確に表現することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・化学反応に伴うさまざまなエネルギーの出入りがあることを意欲的に探究・考察しようとする。	○	○	○	18
定期考査			○	○		1



高等学校 令和5年度（2学年用） 教科 理科 科目 生物基礎

教科： 理科 科目： 生物基礎 単位数： 2 単位  
 対象学年組： 第 2 学年 A 組～ H 組  
 使用教科書： (生基704 「高校生物基礎」 実教出版)

教科 理科 の目標：  
 【知識及び技能】 自然の事物・現象やその法則性を理解し、科学的に探究するための実験等の基本操作を身に付ける。  
 【思考力、判断力、表現力等】 自然の事物・現象から問題を見出し、見通しをもって実験を行い、科学的に分析し表現する力を身に付ける。  
 【学びに向かう力、人間性等】 自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとしている。

科目	【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
科目	日常生活や社会との関連を回りながら、生物や生物現象についての観察、実験などを行うことをとおして、生物や生物現象に関する基本的な概念や原理・法則を理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けている。	生物や生物現象を対象に、探究の過程を通して、問題を見いだすための観察、情報の収集、仮説の設定、実験の計画、実験による検証、調査、データの分析・解釈、推論などの探究の方法が習得できている。また、報告書を作成したり発表したりして、科学的に探究している。	生物や生物現象に対して主体的に関わり、それらに対する気付きから課題を設定し解決しようとする態度など、科学的に探究しようとしている。その際、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与しようとしている。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知 思 態			配当 時数
				知	思	態	
1 学 期	第1章 生物の特徴 1節 生物の多様性と共通性 【知識及び技能】 様々な生物の比較に基づいて、生物は多様でありながら共通性をもっていることを見いだして理解する。また、生物の共通性と起源の共有を関連付けて理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 生物の特徴について、観察、実験などを通して探究し、多様な生物がもつ共通の特徴を見いだして表現する。 【学びに向かう力、人間性等】 生物や生物現象に主体的に関わり、それらに対する気付きから課題を設定し科学的に探究し、解決する。	・指導事項 ・さまざまな生物の比較に基づいて、生物は多様でありながら共通性をもっていることを見出し理解させる。 ・生物が共通性を保ちながら進化し多様化してきたこと、共通性は起源の共有に由来するを理解させる。 ・生物に共通する性質は細胞であることを理解させる。また、細胞にも原核細胞と真核細胞があることを細胞の内部構造とともに理解させる。 ・顕微鏡、カメラの使い方 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 ・生物の共通性と多様性について、すべての生物で細胞が共通の構造であることを理解している。 ・原核細胞と真核細胞の違いについて、それらの細胞に含まれる細胞小器官の違いとともに理解している。 ・試料の採取、染色などを行い、光学顕微鏡で観察する技能を習得している。 【思考・判断・表現】 ・資料や実験をもとに、生物に共通する性質を見出し表現することができる。 ・細胞におけるDNAのはたらきについて理解し、説明することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・生物の共通性を、実験や観察を通して見出し、理解しようとしている。 ・原核細胞と真核細胞について、細胞に含まれる細胞小器官をもとに、違いを理解しようとしている。	○	○	○	8
	2節 生物とエネルギー 【知識及び技能】 生物とエネルギーに関する資料に基づいて、生命活動にエネルギーが必要であることを理解する。また、光合成や呼吸などの代謝とATPを関連付けて理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 生物の特徴について、観察、実験などを通して探究し、多様な生物がもつ共通の特徴を見いだして表現する。 【学びに向かう力、人間性等】 生物や生物現象に主体的に関わり、それらに対する気付きから課題を設定し科学的に探究し、解決する。	・生命活動に必要なエネルギーと代謝について理解させる。その際、呼吸と光合成の概要を扱う。 ・代謝の反応が行われるときに、酵素がどのように関与しているのか理解させる。 ・光合成や呼吸がATPを合成する反応であることを理解させる。 ・カタラーゼ、ミョウゴの観察 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 ・生命活動に必要なエネルギーを、呼吸や光合成から得ていることを理解している。 ・体内で行われる化学反応は、酵素が触媒していることを理解している。 【思考・判断・表現】 ・呼吸や光合成からエネルギーを得る方法を、ATPと関連付けて考察し、それを表現できている。 ・カタラーゼを用いた実験から、酵素の作用と作用する物質の関係について結果を導き出すことができている。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・資料に基づいて、生命活動にエネルギーが必要であることを理解しようとしている。また、呼吸や光合成から得ていることを理解しようとしている。 ・体内で行われる化学反応は、酵素が関わっていることを理解しようとしている。	○	○	○	11
	第2章 遺伝子とその働き 1節 遺伝情報とDNA 【知識及び技能】 DNAの構造に関する資料に基づいて、遺伝情報を担う物質としてのDNAの特徴を見いだして理解する。とともに、塩基の相補性とDNAの複製を関連付けて理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 生物の特徴について、観察、実験などを通して探究し、多様な生物がもつ共通の特徴を見いだして表現する。 【学びに向かう力、人間性等】 生物や生物現象に主体的に関わり、それらに対する気付きから課題を設定し科学的に探究し、解決する。	・さまざまな生命現象にはタンパク質が関わっていることに触れ、それらタンパク質がDNAの遺伝情報に基づいて合成されることを理解させる。 ・DNAからタンパク質が合成される際には、転写・翻訳が行われることを理解させる。 ・DNA模型の作製 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 ・DNAの塩基配列に基づいて、タンパク質が合成されることを理解している。 【思考・判断・表現】 ・DNAの遺伝情報に基づいてタンパク質が合成される過程を体系的に考察し、表現できている。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・DNAの塩基配列の情報に基づいて、タンパク質が合成されることを理解しようとしている。	○	○	○	5
定期考査				○	○		1
	第2章 遺伝子とその働き 1節 遺伝情報とDNA 【知識及び技能】 遺伝情報の発現に関する資料に基づいて、DNAの塩基配列とタンパク質のアミノ酸配列との関係を見いだして理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 生物の特徴について、観察、実験などを通して探究し、多様な生物がもつ共通の特徴を見いだして表現する。 【学びに向かう力、人間性等】 生物や生物現象に主体的に関わり、それらに対する気付きから課題を設定し科学的に探究し、解決する。	・DNAからタンパク質が合成される際には、転写・翻訳が行われることを理解させる。 ・すべての遺伝子が細胞内で常に発現しているわけではないことを理解させる。 ・DNAの抽出実験 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 ・遺伝子の発現について理解し、細胞ごとに特定の遺伝子が発現するを理解している。 ・試料の採取、染色などを行い、光学顕微鏡で観察する技能を習得している。 【思考・判断・表現】 ・mRNAとアミノ酸との対応関係について、遺伝暗号表から読み解くことができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・DNAの塩基配列の情報に基づいて、タンパク質が合成されることを理解しようとしている。	○	○	○	13

2 学 期	<p>2節 体内環境の維持のしくみ</p> <p>【知識及び技能】 体の調節に関する観察、実験などを行い、体内での情報の伝達が体の調節に関係していることを見いだして理解する。</p> <p>体内環境の維持の仕組みに関する資料に基づいて、体内環境の維持とホルモンの働きとの関係を見いだして理解する。また、体内環境の維持を自律神経と関連付けて理解する。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 ヒトの体の調節について、観察、実験などを通して探究し、神経系と内分泌系による調節及び免疫などの特徴を見いだして表現する。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 生物や生物現象に主体的に関わり、それらに対する気付きから課題を設定し科学的に探究し、解決する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体内での情報の伝達がかからだの調節に関係していることを見出して理解させる。</li> <li>・体内環境の調節に、神経系と内分泌系が関わっていることを理解させる。</li> <li>・体内環境の維持とホルモンの働きとの関係を見出して理解させる。</li> <li>・ヒトの体液濃度の調節が、自律神経とホルモンの作用により一定の範囲に保たれていることを理解させる。</li> <li>・血糖濃度がホルモンと自律神経が関わるしくみで調節されていることについて理解させ、調節ができなくなったときに発症する疾患についても触れる。</li> <li>・腎臓の構造と観察</li> <li>・一人1台端末の活用 等</li> </ul>	<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・神経やホルモンの働きにより体内環境が維持されることを理解している。</li> <li>・ホルモンの分泌により血糖濃度が保たれることを理解しており、ホルモンの分泌不足による発症する疾患についての知識を得ている。</li> <li>・実験により得られたデータを比較・分析することにより、結論を導き出すことができています。</li> </ul> <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・からだの調節に関する観察、実験などを行い、体内での情報の伝達が体の調節に関係していることを見出して理解している。</li> <li>・血糖濃度調節のしくみを、ホルモンと自律神経系の両方の働きから説明できている。</li> </ul> <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・観察、実験に基づいて、体内での情報の伝達がかからだの調節に関係していることを見出し、理解しようとしている。</li> <li>・資料に基づいて、ヒトの血糖濃度が調節されるしくみを見いだし、理解しようとしている。</li> </ul>	○	○	○	13
	定期考査			○	○		1
3 学 期	<p>3節 免疫</p> <p>【知識及び技能】 免疫に関する資料に基づいて、異物を排除する防御機構が備わっていることを見いだして理解する。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 ヒトの体の調節について、観察、実験などを通して探究し、神経系と内分泌系による調節及び免疫などの特徴を見いだして表現する。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 生物や生物現象に主体的に関わり、それらに対する気付きから課題を設定し科学的に探究し、解決する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ヒトには異物を排除する防御機構が備わっていることを見出して理解させる。</li> <li>・病原体の侵入を防ぐための、異物を認識し、排除するしくみを理解させる。</li> <li>・免疫のしくみの概要を取り上げ、体液性免疫や細胞性免疫について理解させる。</li> <li>・一次応答と二次応答の違いを理解させ、同じ疾患に二度かかりにくい理由を考察させる。</li> <li>・ヒトの身近な免疫疾患について理解させる。</li> <li>・一人1台端末の活用 等</li> </ul>	<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・病原体などの異物を認識・排除するしくみを理解している。</li> <li>・免疫の医療への応用やヒトの免疫疾患について理解している。</li> </ul> <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・資料に基づき、異物を排除する防御機構が備わっていることを見出して理解することができている。</li> <li>・病原体を認識・排除する機構のしくみを体系的に考察し、表現することができている。</li> <li>・ヒトの免疫疾患について、身近な例をもとに説明することができている。</li> </ul> <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・免疫について、身近な現象と絡めて理解しようとしている。</li> </ul>	○	○	○	10
	<p>3節 生態系と生物の多様性</p> <p>4節 生態系のバランスと保全</p> <p>【知識及び技能】 生態系と生物の多様性に関する観察、実験などを行い、生態系における生物の種多様性を見いだして理解する。また、生物の種多様性と生物間関係性を関連付けて理解する。</p> <p>生態系のバランスに関する資料に基づいて、生態系のバランスと人為的攪乱を関連付けて理解する。また、生態系の保全の重要性を認識する。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 生物の多様性と生態系について、観察、実験などを通して探究し、生態系における、生物の多様性及び生物と環境との関係性を見いだして表現する。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を身に付ける。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生態系における生物の種多様性について理解させる。</li> <li>・生物の種多様性と生物間関係性を関連付けて理解させる。</li> <li>・捕食によって物質とエネルギーが移動するを理解させる。</li> <li>・生態系のバランスと、人為的攪乱によりそのバランスが崩れる場合があることを理解させる。</li> <li>・生態系の保全の重要性について認識させる。</li> <li>・自然環境の保全に寄与する態度を育てる。</li> <li>・一人1台端末の活用 等</li> </ul>	<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生態系内における種多様性、生物どうしのかかわりあいについて理解している。</li> <li>・生態系のバランスや、生態系の保全の重要性について理解している。</li> <li>・野外で行う調査・実験の方法を習得している。</li> <li>・インターネットや文献などを用いて、調査する方法を習得している。</li> </ul> <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生態系と生物の多様性に関する観察、実験などから、生態系における生物の種多様性を見いだすことができています。</li> <li>・生態系の保全の重要性について、生物の多様性の視点から考察することができています。</li> <li>・世界環境問題について、情報を調査し、自分の考えをまとめ、表現することができています。</li> </ul> <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生物が多様であることを、食物網や間接効果と関連付けて説明できている。</li> <li>・生態系のバランスや、生態系を保全することが重要であることを理解しようとしている。</li> </ul>	○	○	○	7
	定期考査			○	○		1
						合計	
						70	



高等学校 令和5年度（2学年用）教科 理科 科目 物理

教科：理科 科目：物理 単位数：3 単位

対象学年組：第2学年 組～組

使用教科書：（物理709「高等学校 物理」 第一学習社、「新課程版 セミナー物理基礎＋物理」 第\*）

教科 理科

の目標：

【知識及び技能】自然の事物・現象についての概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの技能を身に付ける。

【思考力、判断力、表現力等】自然の事物・現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究する力を身に付ける。

【学びに向かう力、人間性等】自然の事物・現象に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとする態度を身に付ける。

科目 物理 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
物理的な事物・現象についての観察、実験などを行うことを通して、物理の基本的な概念や原理・法則の理解を図るとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付ける。	物理的な事物・現象を対象に、探究の過程を通して、情報の収集、仮設の設定、実験の計画、実験による検証、実験データの分析・解釈などの探究の方法を習得する。また、報告書を作成したり発表したりして、科学的に探究する力を身に付ける。	物理的な事物・現象に対して主体的に関わり、それらに対する気付きから課題を設定し解決しようとする態度など、科学的に探究しようとする態度を身に付ける。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
<p>第1節 平面運動と放物運動</p> <p>①平面運動 ②放物運動</p> <p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>変位や速度、加速度などについての基本的な物理量の定義を理解し、それぞれを式で表すことができる。</li> <li>速度の合成・分解や相対速度に関する現象を観察し、それぞれを式で表すことができる。</li> <li>水平投射、斜方投射の運動の特徴を踏まえ、運動のようすを表す式を導くことができる。</li> <li>アルミニウム箔のカップを落下させたときのようすから、空気抵抗の大きさを実感し、終端速度と質量との関係を求めることができる。</li> </ul> <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>変位や速度、加速度の違いを理解し、それぞれの関係を式で表すことができる。</li> <li>水平投射、または斜方投射された物体の速度を分解して、それぞれの運動の特徴を説明することができる。</li> <li>空気抵抗を受けて落下する物体について、運動方程式から終端速度と質量との関係を考えることができる。</li> </ul> <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>平面運動での位置や変位、速度、加速度などを表すベクトルについて、「物理基礎」で学習したベクトルの内容と関連させながら意欲的に理解しようとする。</li> <li>「物理基礎」で学習した等速直線運動や落下運動の式をもとに、水平投射と斜方投射について、定量的に考えようとする。</li> <li>アルミニウム箔のカップが落下するようすなどに関心をもち、それらの現象を物理的に考えようとする。</li> </ul>	<p>・指導事項</p> <p>基本的な概念や原理・法則の解説、問題演習、小テスト、課題提出</p> <p>・教材</p> <p>教科書・授業プリント・ワーク</p> <p>・一人1台端末の活用 等</p> <p>・タブレットによる参考資料の配布</p>	<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>変位や速度、加速度などについての基本的な物理量の定義を理解し、それぞれを式で表すことができる。</li> <li>速度の合成・分解や相対速度に関する現象を観察し、それぞれを式で表すことができる。</li> <li>水平投射、斜方投射の運動の特徴を踏まえ、運動のようすを表す式を導くことができる。</li> <li>アルミニウム箔のカップを落下させたときのようすから、空気抵抗の大きさを実感し、終端速度と質量との関係を求めることができる。</li> </ul> <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>変位や速度、加速度の違いを理解し、それぞれの関係を式で表すことができる。</li> <li>水平投射、または斜方投射された物体の速度を分解して、それぞれの運動の特徴を説明することができる。</li> <li>空気抵抗を受けて落下する物体について、運動方程式から終端速度と質量との関係を考えることができる。</li> </ul> <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>平面運動での位置や変位、速度、加速度などを表すベクトルについて、「物理基礎」で学習したベクトルの内容と関連させながら意欲的に理解しようとする。</li> <li>「物理基礎」で学習した等速直線運動や落下運動の式をもとに、水平投射と斜方投射について、定量的に考えようとする。</li> <li>アルミニウム箔のカップが落下するようすなどに関心をもち、それらの現象を物理的に考えようとする。</li> </ul>	○	○	○	7

<p>第2節 剛体のつりあい</p> <p>①剛体にはたらく力とその合力 ②剛体の重心とつりあい</p> <p><b>【知識・技能】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>バットのひねりあいを通して、力のモーメントの大きさは、力の大きさと力の長さに関係することを理解する。</li> <li>力が剛体におよぼすはたらきを考え、力のモーメントを用いて表すことができる。</li> <li>平行でない2力、平行な2力の違いを理解し、それぞれ適切に力の合成を行うことができる。</li> <li>剛体がつりあうときの力、力のモーメントの関係をそれぞれ確認し、剛体の重心を求めることができる。</li> </ul> <p><b>【思考・判断・表現】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ばねばかりとおもりを用いた実験から、剛体がつりあう条件を見出すことができる。</li> <li>剛体がつりあう条件について、式を用いて考えることができる。</li> <li>力のつりあいを活用して、さまざまな形状の剛体の重心を考えることができる。</li> <li>物体を傾けたときに転倒する条件について、力のモーメントのつりあいから調べるができる。</li> </ul> <p><b>【主体的に学習に取り組む態度】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>剛体がつりあいの状態にあるときの条件を予想し、主体的に実験に取り組んでいる。</li> <li>質点と剛体の違いを踏まえ、剛体にはたらく力のはたらきについて意欲的に考察しようとする。</li> <li>重心を表す式を利用して、さまざまな形状の剛体で重心の位置を調べようとする。</li> <li>日常での経験と照らし合わせて力のモーメントを考え、物理学的に理解しようとする。</li> </ul>	<p>・指導事項 基本的な概念や原理・法則の解説、問題演習、小テスト、課題提出</p> <p>・教材 教科書・授業プリント・ワーク 一人1台端末の活用 等 タブレットによる参考資料の配布</p>	<p><b>【知識・技能】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>バットのひねりあいを通して、力のモーメントの大きさは、力の大きさと力の長さに関係することを理解する。</li> <li>力が剛体におよぼすはたらきを考え、力のモーメントを用いて表すことができる。</li> <li>平行でない2力、平行な2力の違いを理解し、それぞれ適切に力の合成を行うことができる。</li> <li>剛体がつりあうときの力、力のモーメントの関係をそれぞれ確認し、剛体の重心を求めることができる。</li> </ul> <p><b>【思考・判断・表現】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ばねばかりとおもりを用いた実験から、剛体がつりあう条件を見出すことができる。</li> <li>剛体がつりあう条件について、式を用いて考えることができる。</li> <li>力のつりあいを活用して、さまざまな形状の剛体の重心を考えることができる。</li> <li>物体を傾けたときに転倒する条件について、力のモーメントのつりあいから調べるができる。</li> </ul> <p><b>【主体的に学習に取り組む態度】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>剛体がつりあいの状態にあるときの条件を予想し、主体的に実験に取り組んでいる。</li> <li>質点と剛体の違いを踏まえ、剛体にはたらく力のはたらきについて意欲的に考察しようとする。</li> <li>重心を表す式を利用して、さまざまな形状の剛体で重心の位置を調べようとする。</li> <li>日常での経験と照らし合わせて力のモーメントを考え、物理学的に理解しようとする。</li> </ul>	○	○	○	8
<p>定期考査</p>			○	○		1
<p>1学期</p> <p>第3節 運動量の保存</p> <p>①運動量と力積 ②運動量保存の法則 ③反発係数</p> <p><b>【知識・技能】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>運動量と力積の物理量の定義を理解し、それぞれを式で表すことができる。</li> <li>F-tグラフから力積、力、衝突時間の関係を導くことができる。</li> <li>運動量保存の法則と反発係数の式を用いて、さまざまな衝突における速度や運動量を計算することができる。</li> <li>反発係数の値に応じて、衝突による力学的エネルギーの変化を計算することができる。</li> <li>テニスのボールやピンポン球などを用いて、はね上がった高さや測定することで、床との間の反発係数を求めることができる。</li> </ul> <p><b>【思考・判断・表現】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>運動量がベクトルであることを理解し、運動量の変化と力積との関係について説明することができる。</li> <li>F-tグラフから物体が受ける力積の大きさや、平均力を的確に読み取ることができる。</li> <li>作用・反作用の法則を用いて、物体が衝突や分裂をしたときの運動量保存の法則を考察することができる。</li> <li>連結した2台の台車を分裂させたときの運動量が保存されることを考察することができる。</li> <li>反発係数を理解し、衝突における力学的エネルギーの変化を考察することができる。</li> </ul> <p><b>【主体的に学習に取り組む態度】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>運動量の意味について、キャッチボールやボウリングなどの身近な例をもとに理解しようとする。</li> <li>運動量の変化と力積との関係を用いて、さまざまな条件でおこる衝突について、運動量保存の法則を意欲的に導出しようとする。</li> <li>力学台車を用いた実験に主体的に取り組む、運動量保存の法則の式を用いて、物体の合体や分裂に</li> </ul>	<p>・指導事項 基本的な概念や原理・法則の解説、問題演習、小テスト、課題提出</p> <p>・教材 教科書・授業プリント・ワーク 一人1台端末の活用 等 タブレットによる参考資料の配布</p>	<p><b>【知識・技能】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>運動量と力積の物理量の定義を理解し、それぞれを式で表すことができる。</li> <li>F-tグラフから力積、力、衝突時間の関係を導くことができる。</li> <li>運動量保存の法則と反発係数の式を用いて、さまざまな衝突における速度や運動量を計算することができる。</li> <li>反発係数の値に応じて、衝突による力学的エネルギーの変化を計算することができる。</li> <li>テニスのボールやピンポン球などを用いて、はね上がった高さや測定することで、床との間の反発係数を求めることができる。</li> </ul> <p><b>【思考・判断・表現】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>運動量がベクトルであることを理解し、運動量の変化と力積との関係について説明することができる。</li> <li>F-tグラフから物体が受ける力積の大きさや、平均力を的確に読み取ることができる。</li> <li>作用・反作用の法則を用いて、物体が衝突や分裂をしたときの運動量保存の法則を考察することができる。</li> <li>連結した2台の台車を分裂させたときの運動量が保存されることを考察することができる。</li> <li>反発係数を理解し、衝突における力学的エネルギーの変化を考察することができる。</li> </ul> <p><b>【主体的に学習に取り組む態度】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>運動量の意味について、キャッチボールやボウリングなどの身近な例をもとに理解しようとする。</li> <li>運動量の変化と力積との関係を用いて、さまざまな条件でおこる衝突について、運動量保存の法則を意欲的に導出しようとする。</li> <li>力学台車を用いた実験に主体的に取り組む、運動量保存の法則の式を用いて、物体の合体や分裂に</li> </ul>	○	○	○	9

<p>第4節 円運動と単振動</p> <p>①円運動 探究2 等速円運動の角速度 ②慣性力と遠心力 ③単振動 ④万有引力による運動</p> <p>【知識・技能】 ・等速円運動をする物体の速度、角速度、加速度、向心力などの定義を理解し、それぞれを式で表すことができる。 ・観測者が非慣性系にあるとき、慣性力ははたらくことを理解し、その大きさを求めることができる。 ・単振動する物体にはたらく力を把握し、復元力の式を求めることができる。 ・単振り子の周期を測定し、その値が単振り子の長さだけで決まることを導くことができる。 ・人工衛星などの物体の円運動について運動方程式を立て、各物理量を計算で求めることができる。 ・万有引力による位置エネルギーを求め、物体の力学的エネルギーを求めることができる。</p> <p>【思考・判断・表現】 ・等速円運動をさせたときの水滴の飛び散る向きから、円運動における速度の向きを考察することができる。 ・向心力の意味を理解し、等速円運動する物体にはたらく力を的確に図示することができる。 ・観測者の立場によって生じる、運動する物体にはたらく力の違いを説明することができる。 ・等速円運動と比較することによって、単振動の変位や速度などの式を導くことができる。 ・単振動する物体のようすを、グラフを用いて説明することができる。 ・ケプラーの法則を用いて、万有引力の法則を導いた過程について理解し、重力との関係を式で表すことができる。 ・万有引力がする仕事との関係をもとに、万有引力による位置エネルギーの式を導くことができる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 ・角速度、周期、回転数などの関係式を、自ら進んで導出しようとする。 ・等速円運動をしている物体の、向心力と角速度との関係を主体的に調べようとしている。 ・遠心力などの慣性力について、定期考査</p>	<p>・指導事項 基本的な概念や原理・法則の解説、問題演習、小テスト、課題提出 ・教材 教科書・授業プリント・ワーク 一人1台端末の活用等 タブレットによる参考資料の配布</p>	<p>【知識・技能】 ・等速円運動をする物体の速度、角速度、加速度、向心力などの定義を理解し、それぞれを式で表すことができる。 ・観測者が非慣性系にあるとき、慣性力ははたらくことを理解し、その大きさを求めることができる。 ・単振動する物体にはたらく力を把握し、復元力の式を求めることができる。 ・単振り子の周期を測定し、その値が単振り子の長さだけで決まることを導くことができる。 ・人工衛星などの物体の円運動について運動方程式を立て、各物理量を計算で求めることができる。 ・万有引力による位置エネルギーを求め、物体の力学的エネルギーを求めることができる。</p> <p>【思考・判断・表現】 ・等速円運動をさせたときの水滴の飛び散る向きから、円運動における速度の向きを考察することができる。 ・向心力の意味を理解し、等速円運動する物体にはたらく力を的確に図示することができる。 ・観測者の立場によって生じる、運動する物体にはたらく力の違いを説明することができる。 ・等速円運動と比較することによって、単振動の変位や速度などの式を導くことができる。 ・単振動する物体のようすを、グラフを用いて説明することができる。 ・ケプラーの法則を用いて、万有引力の法則を導いた過程について理解し、重力との関係を式で表すことができる。 ・万有引力がする仕事との関係をもとに、万有引力による位置エネルギーの式を導くことができる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 ・角速度、周期、回転数などの関係式を、自ら進んで導出しようとする。 ・等速円運動をしている物体の、向心力と角速度との関係を主体的に調べようとしている。 ・遠心力などの慣性力について、</p>	○	○	○	9
定期考査			○	○		1
<p>第5節 気体の性質と分子の運動</p> <p>①気体の法則 ②気体の分子運動 ③気体の内部エネルギーと仕事</p> <p>【知識・技能】 ・注射器と台ばかりを用いて、気体の圧力と体積の関係調べ、ボイルの法則が成り立つことを理解する。 ・ボイルの法則、シャルルの法則を用いて、ボイル・シャルルの法則を導くことができる。 ・気体に関する法則や気体の状態方程式を用いて、計算することができる。 ・分子の運動をもとにして、気体の圧力を導出する。 ・水を入れた小型ポットを激しく振って水温を上昇させることで、気体の内部エネルギーと温度の関係を調べる。 ・気体の状態変化に熱力学の第1法則を適用し、エネルギーの出入りを考えることができる。 ・熱機関の熱効率を計算で求めることができる。</p> <p>【思考・判断・表現】 ・気体の圧力が生じる原因を把握し、気体に関する各法則を考察することができる。 ・気体の状態方程式を用いて、さまざまな条件における気体の状態を考察することができる。 ・運動量と力積の関係を用いて、気体分子の運動をもとに、気体の圧力を導くことができる。 ・気体の状態変化について、p-Vグラフからの読み取りができる。 ・気体の状態変化について、その変化の違いを熱力学の第1法則を用いて説明することができる。 ・熱力学の第1法則や、気体の状態方程式を用いて、定積モル比熱や定圧モル比熱を考察することができる。 ・熱機関のしくみを理解し、熱効率を考察することができる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 ・ボイル・シャルルの法則を利用して、気体の状態方程式を導出する過程を理解しようとする。 ・日常での経験と照らし合わせて気体の圧力と体積、温度の関係を考え、物理学的に理解しようとしている。 ・気体の分子運動と圧力との間どのような関係があるかを予想し、主体的に導出しようとしている。 ・圧縮発火器の原理について、気体の状態変化におけるエネルギーの出入りと結びつけ、意欲的に考察しようとしている。 ・気体の状態変化での熱効率の算出に意欲的に取り組む。 ・熱機関の製作の探究などに主体的に取り組む、熱効率を上げる方法を考えようとしている。</p> <p>2学期</p>	<p>・指導事項 基本的な概念や原理・法則の解説、問題演習、小テスト、課題提出 ・教材 教科書・授業プリント・ワーク 一人1台端末の活用等 タブレットによる参考資料の配布</p>	<p>【知識・技能】 ・注射器と台ばかりを用いて、気体の圧力と体積の関係を調べ、ボイルの法則が成り立つことを理解する。 ・ボイルの法則、シャルルの法則を用いて、ボイル・シャルルの法則を導くことができる。 ・気体に関する法則や気体の状態方程式を用いて、計算することができる。 ・分子の運動をもとにして、気体の圧力を導出する。 ・水を入れた小型ポットを激しく振って水温を上昇させることで、気体の内部エネルギーと温度の関係を調べる。 ・気体の状態変化に熱力学の第1法則を適用し、エネルギーの出入りを考えることができる。 ・熱機関の熱効率を計算で求めることができる。</p> <p>【思考・判断・表現】 ・気体の圧力が生じる原因を把握し、気体に関する各法則を考察することができる。 ・気体の状態方程式を用いて、さまざまな条件における気体の状態を考察することができる。 ・運動量と力積の関係を用いて、気体分子の運動をもとに、気体の圧力を導くことができる。 ・気体の状態変化について、p-Vグラフからの読み取りができる。 ・気体の状態変化について、その変化の違いを熱力学の第1法則を用いて説明することができる。 ・熱力学の第1法則や、気体の状態方程式を用いて、定積モル比熱や定圧モル比熱を考察することができる。 ・熱機関のしくみを理解し、熱効率を考察することができる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 ・ボイル・シャルルの法則を利用して、気体の状態方程式を導出する過程を理解しようとする。 ・日常での経験と照らし合わせて気体の圧力と体積、温度の関係を考え、物理学的に理解しようとしている。 ・気体の分子運動と圧力との間どのような関係があるかを予想し、主体的に導出しようとしている。 ・圧縮発火器の原理について、気体の状態変化におけるエネルギーの出入りと結びつけ、意欲的に考察しようとしている。 ・気体の状態変化での熱効率の算出に意欲的に取り組む。 ・熱機関の製作の探究などに主体的に取り組む、熱効率を上げる方法を考えようとしている。</p>	○	○	○	13

<p>第1節 波の性質</p> <p>①正弦波 ②波の伝わり方</p> <p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・位相が表すものを理解し、正弦波を式で表すことができる。</li> <li>・重なりあった波の作図などを通して、定常波ができる条件を理解している。</li> <li>・水面波の干渉の条件について、式を用いて理解する。</li> <li>・水波投影装置を用いて、平面波の反射、屈折の様子を観察し、反射の法則、屈折の法則を定性的に調べることができる。</li> <li>・波の回折は、すき間の大きさや波長によって違いが生じることを理解している。</li> </ul> <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・正弦波の波形と波の式を結びつけて考えることができる。</li> <li>・<math>y-x</math>グラフ、<math>y-t</math>グラフから、振幅や周期、波長などの物理量を読み取ることができる。</li> <li>・<math>y-x</math>グラフ、<math>y-t</math>グラフの関係と違いを理解し、一方のグラフからもう一方のグラフを描くことができる。</li> <li>・ホイヘンスの原理を用いて、平面波の反射や屈折を考え、説明することができる。</li> <li>・平面波の回折のしくみを考え、大きく回折する条件について説明することができる。</li> </ul> <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「物理基礎」で学習した内容をもとに、正弦波の式を意欲的に導出しようとしている。</li> <li>・身のまわりの波に関する現象に関心を持ち、物理学的な観点から自ら進んで考察しようとしている。</li> <li>・ホイヘンスの原理を用いて、平面波の反射・屈折における法則性を考えようとする。</li> </ul>	<p>・指導事項</p> <p>基本的な概念や原理・法則の解説、問題演習、小テスト、課題提出</p> <p>・教材</p> <p>・教科書・授業プリント・ワーク</p> <p>・一人1台端末の活用 等</p> <p>タブレットによる参考資料の配布</p>	<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・位相が表すものを理解し、正弦波を式で表すことができる。</li> <li>・重なりあった波の作図などを通して、定常波ができる条件を理解している。</li> <li>・水面波の干渉の条件について、式を用いて理解する。</li> <li>・水波投影装置を用いて、平面波の反射、屈折の様子を観察し、反射の法則、屈折の法則を定性的に調べることができる。</li> <li>・波の回折は、すき間の大きさや波長によって違いが生じることを理解している。</li> </ul> <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・正弦波の波形と波の式を結びつけて考えることができる。</li> <li>・<math>y-x</math>グラフ、<math>y-t</math>グラフから、振幅や周期、波長などの物理量を読み取ることができる。</li> <li>・<math>y-x</math>グラフ、<math>y-t</math>グラフの関係と違いを理解し、一方のグラフからもう一方のグラフを描くことができる。</li> <li>・ホイヘンスの原理を用いて、平面波の反射や屈折を考え、説明することができる。</li> <li>・平面波の回折のしくみを考え、大きく回折する条件について説明することができる。</li> </ul> <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「物理基礎」で学習した内容をもとに、正弦波の式を意欲的に導出しようとしている。</li> <li>・身のまわりの波に関する現象に関心を持ち、物理学的な観点から自ら進んで考察しようとしている。</li> <li>・ホイヘンスの原理を用いて、平面波の反射・屈折における法則性を考えようとする。</li> </ul>	○	○	○	15
<p>定期考査</p>			○	○		1
<p>第2節 音波</p> <p>①音の伝わり方 ②ドップラー効果</p> <p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第1節で学習した反射の法則や屈折の法則、波の干渉条件などを、音波に適用して理解する。</li> <li>・低周波発振器を利用して、音波が干渉するようすを調べることができる。</li> <li>・音源や観測者が動く場合の音波の波長や振動数の変化について、式を用いて理解する。</li> </ul> <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・音が波であることを踏まえ、反射や屈折、回折などの音波の性質を考えることができる。</li> <li>・クインク管を用いた探究などを通して、干渉のようすから音速および音波の波長を測定することができる。</li> <li>・音波の伝わる速さが音源の速度に関係ないことから、ドップラー効果によって変化する波長や振動数を導出することができる。</li> </ul> <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・音が伝わるようすに関心を持ち、音波の反射・屈折・回折・干渉について考えようとする。</li> <li>・クインク管を用いた探究など、積極的に実験活動に取り組んでいる。</li> <li>・小型の防犯ブザーをキャッチボールして、音の高さが変化することを積極的に確認しようとしている。</li> <li>・身近な現象と結びつけてドップラー効果を理解し、波長や振動数の変化を物理学的にとらえようとする。</li> </ul>	<p>・指導事項</p> <p>基本的な概念や原理・法則の解説、問題演習、小テスト、課題提出</p> <p>・教材</p> <p>・教科書・授業プリント・ワーク</p> <p>・一人1台端末の活用 等</p> <p>タブレットによる参考資料の配布</p>	<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第1節で学習した反射の法則や屈折の法則、波の干渉条件などを、音波に適用して理解する。</li> <li>・低周波発振器を利用して、音波が干渉するようすを調べることができる。</li> <li>・音源や観測者が動く場合の音波の波長や振動数の変化について、式を用いて理解する。</li> </ul> <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・音が波であることを踏まえ、反射や屈折、回折などの音波の性質を考えることができる。</li> <li>・クインク管を用いた探究などを通して、干渉のようすから音速および音波の波長を測定することができる。</li> <li>・音波の伝わる速さが音源の速度に関係ないことから、ドップラー効果によって変化する波長や振動数を導出することができる。</li> </ul> <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・音が伝わるようすに関心を持ち、音波の反射・屈折・回折・干渉について考えようとする。</li> <li>・クインク管を用いた探究など、積極的に実験活動に取り組んでいる。</li> <li>・小型の防犯ブザーをキャッチボールして、音の高さが変化することを積極的に確認しようとしている。</li> <li>・身近な現象と結びつけてドップラー効果を理解し、波長や振動数の変化を物理学的にとらえようとする。</li> </ul>	○	○	○	9

<p>第3節 光波 ①光の性質 ②レンズと鏡 ③光の回折と干渉</p> <p><b>【知識・技能】</b> ・ 光が波の一種であり、波長の大きさなどによって分類されることを知る。 ・ 光の速さを把握し、反射の法則、屈折の法則を理解する。 ・ 光の分散、散乱、偏光など、波としての光の性質を理解する。 ・ 凸レンズや凹レンズ、凸面鏡や凹面鏡のそれぞれの性質を知る。 ・ レンズの式を理解し、実像ができる条件、虚像ができる条件など、レンズの一般的な特徴を理解する。 ・ 球面鏡の式を理解し、実像ができる条件、虚像ができる条件など、球面鏡の一般的な特徴を理解する。 ・ ヤングの実験や回折格子による光の干渉など、さまざまな光の干渉条件について式を適用する。</p> <p><b>【思考・判断・表現】</b> ・ フィゾーの実験の原理を理解し、光速の導出方法を説明することができる。 ・ 光が波であることを踏まえ、光の反射・屈折などの性質を考察できる。 ・ 直方体のガラスと針を利用して、ガラスの屈折率を測定することができる。 ・ 光の波長と屈折率の関係を理解し、光の分散、散乱などの性質を考察できる。 ・ 凸レンズや凹レンズ、凸面鏡や凹面鏡の基本的な性質を学習し、光の進み方、像のできる条件などを説明できる。 ・ ヤングの実験、回折格子による光の干渉を学習し、薄紙、くさび形空気層などによる光の干渉条件を導くことができる。 ・ レーザーポインタと二重スリットを用いた光の干渉に関する探究などを通じて、レーザ光の波長と干渉縞の間隔との関係を考察できる。</p> <p><b>【主体的に学習に取り組む態度】</b> ・ 光について関心をもち、身のまわりの事象や現象と結びつけ、波としてのどのような性質をもつかを理解しようとする。 ・ 虹のできるしくみや、青空、夕陽の色の見え方について関心をもち、光と色の関係を考えようとする。 ・ レンズを通したものの見え方に興味をもち、物理学的にとらえよ</p> <p>定期考査</p>	<p>・指導事項 基本的な概念や原理・法則の解説、問題演習、小テスト、課題提出</p> <p>・教材 教科書・授業プリント・ワーク 一人1台端末の活用 等 タブレットによる参考資料の配布</p>	<p><b>【知識・技能】</b> ・ 光が波の一種であり、波長の大きさなどによって分類されることを知る。 ・ 光の速さを把握し、反射の法則の式を理解する。 ・ 光の分散、散乱、偏光など、波としての光の性質を理解する。 ・ 凸レンズや凹レンズ、凸面鏡や凹面鏡のそれぞれの性質を知る。 ・ レンズの式を理解し、実像ができる条件、虚像ができる条件など、レンズの一般的な特徴を理解する。 ・ 球面鏡の式を理解し、実像ができる条件、虚像ができる条件など、球面鏡の一般的な特徴を理解する。 ・ ヤングの実験や回折格子による光の干渉など、さまざまな光の干渉条件について式を適用する。</p> <p><b>【思考・判断・表現】</b> ・ フィゾーの実験の原理を理解し、光速の導出方法を説明することができる。 ・ 光が波であることを踏まえ、光の反射・屈折などの性質を考察できる。 ・ 直方体のガラスと針を利用して、ガラスの屈折率を測定することができる。 ・ 光の波長と屈折率の関係を理解し、光の分散、散乱などの性質を考察できる。 ・ 凸レンズや凹レンズ、凸面鏡や凹面鏡の基本的な性質を学習し、光の進み方、像のできる条件などを説明できる。 ・ ヤングの実験、回折格子による光の干渉を学習し、薄紙、くさび形空気層などによる光の干渉条件を導くことができる。 ・ レーザーポインタと二重スリットを用いた光の干渉に関する探究などを通じて、レーザ光の波長と干渉縞の間隔との関係を考察できる。</p> <p><b>【主体的に学習に取り組む態度】</b> ・ 光について関心をもち、身のまわりの事象や現象と結びつけ、波としてのどのような性質をもつかを理解しようとする。 ・ 虹のできるしくみや、青空、夕陽の色の見え方について関心をもち、光と色の関係を考えようとする。 ・ レンズを通したものの見え方に興味をもち、物理学的にとらえよ</p>	○	○	○	12
<p>第1節 電場と電位 ①静電気力 ②電場 ③電位 ④コンデンサー</p> <p><b>【知識・技能】</b> ・ 静電気力に関するクーロンの法則を理解し、さまざまな条件で電場の強さを計算できる。 ・ 電位を計算し、等電位面と電気力線の関係を理解する。 ・ 静電誘導、誘電分極を踏まえ、電場中の導体、不導体における電場、電位のようすを理解する。 ・ アルミニウム箔とプラスチック製のコップを利用してコンデンサーを製作し、コンデンサーの原理を理解する。 ・ コンデンサーにおける基本的な公式を理解し、さまざまな条件における電気容量やたくわえられる電荷を求めることができる。 ・ 静電エネルギーの式の導出過程を理解し、エネルギーを求めることができる。</p> <p><b>【思考・判断・表現】</b> ・ 静電誘導、誘電分極のしくみを説明することができる。 ・ カラーパウダーとサラダ油を利用した、電気力線の観察実験を通して、電気力線の性質を考察する。 ・ 電場と電気力線の関係を理解し、帯電体に入りする電気力線を定量的に考えることができる。 ・ 直流電源装置と黒色画用紙を用いた探究を通して、得られた等電位線から電気力線のようすを図示することができる。 ・ 帯電した金属板間の導体や不導体について、電場や電位のようすをグラフに表すことができる。 ・ コンデンサーにたくわえられる電気量と、極板の面積、極板間の距離との関係を導くことができる。 ・ コンデンサーの極板間の電場や電位差など、各量について、誘電体による変化を考察できる。</p> <p><b>【主体的に学習に取り組む態度】</b> ・ 「物理基礎」で学習した内容を踏まえ、静電気力、電場、電気力線の性質について意欲的に考えようとする。 ・ 電場や電位の関係、等電位面と電気力線の関係、静電誘導、誘電分極の現象などを自ら進んで理解しようとする。 ・ コンデンサーの製作に主体的に取り組む。コンデンサーの原理や、誘電体によって変化するコンデンサーの電気容量などについて、自ら進んで考えようとしている。 ・ 電池のする仕事と静電エネルギーの関係について、意欲的に考える。</p> <p>定期考査</p>	<p>・指導事項 基本的な概念や原理・法則の解説、問題演習、小テスト、課題提出</p> <p>・教材 教科書・授業プリント・ワーク 一人1台端末の活用 等 タブレットによる参考資料の配布</p>	<p><b>【知識・技能】</b> ・ 静電気力に関するクーロンの法則を理解し、さまざまな条件で電場の強さを計算できる。 ・ 電位を計算し、等電位面と電気力線の関係を理解する。 ・ 静電誘導、誘電分極を踏まえ、電場中の導体、不導体における電場、電位のようすを理解する。 ・ アルミニウム箔とプラスチック製のコップを利用してコンデンサーを製作し、コンデンサーの原理を理解する。 ・ コンデンサーにおける基本的な公式を理解し、さまざまな条件における電気容量やたくわえられる電荷を求めることができる。 ・ 静電エネルギーの式の導出過程を理解し、エネルギーを求めることができる。</p> <p><b>【思考・判断・表現】</b> ・ 静電誘導、誘電分極のしくみを説明することができる。 ・ カラーパウダーとサラダ油を利用した、電気力線の観察実験を通して、電気力線の性質を考察する。 ・ 電場と電気力線の関係を理解し、帯電体に入りする電気力線を定量的に考えることができる。 ・ 直流電源装置と黒色画用紙を用いた探究を通して、得られた等電位線から電気力線のようすを図示することができる。 ・ 帯電した金属板間の導体や不導体について、電場や電位のようすをグラフに表すことができる。 ・ コンデンサーにたくわえられる電気量と、極板の面積、極板間の距離との関係を導くことができる。 ・ コンデンサーの極板間の電場や電位差など、各量について、誘電体による変化を考察できる。</p> <p><b>【主体的に学習に取り組む態度】</b> ・ 「物理基礎」で学習した内容を踏まえ、静電気力、電場、電気力線の性質について意欲的に考えようとする。 ・ 電場や電位の関係、等電位面と電気力線の関係、静電誘導、誘電分極の現象などを自ら進んで理解しようとする。 ・ コンデンサーの製作に主体的に取り組む。コンデンサーの原理や、誘電体によって変化するコンデンサーの電気容量などについて、自ら進んで考えようとしている。 ・ 電池のする仕事と静電エネルギーの関係について、意欲的に考える。</p>	○	○	○	18
			○	○		1
						合計
						105

高等学校 令和5年度（2学年用） 教科 保健体育 科目 体育

教科：保健体育 科目：体育 単位数：2 単位

対象学年組：第2学年 A組～H組

使用教科書：（「ステップアップ高校スポーツ2022」（大修館書店））

教科 保健体育 の目標：

- 【知識及び技能】 各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身に付けるようにする。
- 【思考力、判断力、表現力等】 運動や健康についての自己や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。
- 【学びに向かう力、人間性等】 生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

科目 体育 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるように理解するため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けるようにする。	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。	運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する。自己の責任を果たす。参画する。一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
<p>単元：体づくり運動</p> <p>【知識及び技能】 体を動かす楽しさや心地よさを味わい、運動を継続する意義、体の構造、運動の原則などを理解するとともに、健康の保持増進や体力の向上を目指し、目的に適した運動の計画を立て取り組むことができる。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 体づくり運動に自主的に取り組むとともに、互いに助け合い教え合おうとすること、一人一人の違いに応じた動きなどを大切にしようとするなど、健康・安全を確保すること。</p>	<p>・指導事項 オリエンテーション 集団行動 ラジオ体操 基礎運動 体力テスト ・教材 新体力テスト実施要領 ・一人1台端末の活用 等</p>	<p>【知識・運動】 体づくり運動では、自己のねらいに応じて、効果的な成果を得るための適切な運動の行い方があることについて、言ったり書き出したりにしている。</p> <p>【思考・判断・表現】 生活様式や体力の程度を踏まえ、自己のねらいに応じた運動の計画を立案している。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 体づくり運動の学習に主体的に取り組もうとしている。 一人ひとりの違いに応じた動きなどを大切にしようとしている。</p>	○	○	○	6
<p>単元：陸上競技</p> <p>【知識及び技能】 記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、各種目特有の技能を身に付けること。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 動きなどの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えること。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 陸上競技に自主的に取り組むとともに、勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとするなど、自己の責任を果たそうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとするなど、健康・安全を確保すること。</p>	<p>・指導事項 リレー指導 脚力教科トレーニング ・教材 ・一人1台端末の活用 等</p>	<p>【知識・技能】 技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などについて理解している。 短距離走・リレーでは、中間走へのつなぎを滑らかにして速く走ることやバトンの渡しが次走者のスピードを十分高めることができる。</p> <p>【思考・判断・表現】 動きなどの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えることができる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 陸上競技に自主的に取り組むとともに、勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとするなど、自己の責任を果たそうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとするなど、健康・安全を確保しようとしている。</p>	○	○	○	8
<p>単元：水泳</p> <p>【知識及び技能】 記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、効率的に泳ぐこと。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 泳法などの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えること。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 水泳に自主的に取り組むとともに、勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとするなど、自己の責任を果たそうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとするなど、水泳の事故防止に関する心得を遵守するなど健康・安全を確保すること。</p>	<p>・指導事項 泳法指導 ・教材 ・一人1台端末の活用 等</p>	<p>【知識・技能】 技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などについて理解している。 複数の泳法で泳ぐこと、またはリレーをすることが出来る。</p> <p>【思考・判断・表現】 泳法などの事故や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の仲間の考えたことを他者に伝えている。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 水泳に自主的に取り組むとともに、勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとするなど、自己の責任を果たそうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとするなど、水泳の事故防止に関する心得を遵守するなど健康・安全を確保したりしている。</p>	○	○	○	8

<p>単元：水泳</p> <p>【知識及び技能】 記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、効率的に泳ぐこと。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 泳法などの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えること。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 水泳に自主的に取り組むとともに、勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとするなど、自己の責任を果たそうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとするなどや、水泳の事故防止に関する心得を遵守するなど健康・安全を確保すること。</p>	<p>・指導事項 泳法指導 ・教材 ・一人1台端末の活用 等</p>	<p>【知識・技能】 技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などについて理解している。 複数の泳法で泳ぐこと、またはリレーをすることができる。</p> <p>【思考・判断・表現】 泳法などの事故や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の仲間の考えたことを他者に伝えていく。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 水泳に自主的に取り組むとともに、勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとするなど、自己の責任を果たそうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとするなどや、水泳の事故防止に関する心得を遵守するなど健康・安全を確保したりしている。</p>	○	○	○	6
<p>単元：球技</p> <p>【知識及び技能】 勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、作戦に応じた技術で仲間と連携しゲームを展開すること。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えること。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 球技に自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとするなど、作戦などについての話合いに貢献しようとするなど、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとするなど、互いに助け合い教え合おうとすることなどや、健康・安全を確保すること。</p>	<p>・指導事項 バスケットボール ・教材 ・一人1台端末の活用 等</p>	<p>【知識・技能】 球技には、集団対集団、個人対個人で攻防を展開し、勝敗を競う楽しさや喜びを味わえる特性があることについて、言ったり書き出している。</p> <p>【思考・判断・表現】 提示された動きのポイントやつまずきの事例を参考に仲間の課題や出来栄を伝えている。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 球技の学習に積極的に取り組もうとしている。 マナーを守ったり相手の検討を認めたりして、フェアなプレイを守ろうとしている。</p>	○	○	○	10
<p>単元：球技</p> <p>【知識及び技能】 勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、作戦に応じた技術で仲間と連携しゲームを展開すること。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えること。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 球技に自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとするなど、作戦などについての話合いに貢献しようとするなど、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとするなど、互いに助け合い教え合おうとすることなどや、健康・安全を確保すること。</p>	<p>・指導事項 サッカー ・教材 ・一人1台端末の活用 等</p>	<p>【知識・技能】 球技には、集団対集団、個人対個人で攻防を展開し、勝敗を競う楽しさや喜びを味わえる特性があることについて、言ったり書き出している。</p> <p>【思考・判断・表現】 提示された動きのポイントやつまずきの事例を参考に仲間の課題や出来栄を伝えている。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 球技の学習に積極的に取り組もうとしている。 マナーを守ったり相手の検討を認めたりして、フェアなプレイを守ろうとしている。</p>	○	○	○	10
<p>単元：陸上競技</p> <p>【知識及び技能】 記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、各種目特有の技能を身に付けること。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 動きなどの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えること。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 陸上競技に自主的に取り組むとともに、勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとするなど、自己の責任を果たそうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとするなどや、健康・安全を確保すること。</p>	<p>・指導事項 長距離走 ・教材 ・一人1台端末の活用 等</p>	<p>【知識・技能】 技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などについて理解している。 長距離走では、自己に適したペースを維持して走ることができる。</p> <p>【思考・判断・表現】 動きなどの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えていく。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 陸上競技に自主的に取り組むとともに、勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとするなど、自己の責任を果たそうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとするなどや、健康・安全を確保しようとしている。</p>	○	○	○	6
<p>単元：陸上競技</p> <p>【知識及び技能】 記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、各種目特有の技能を身に付けること。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 動きなどの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えること。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 陸上競技に自主的に取り組むとともに、勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとするなど、自己の責任を果たそうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとするなどや、健康・安全を確保すること。</p>	<p>・指導事項 長距離走 ・教材 ・一人1台端末の活用 等</p>	<p>【知識・技能】 技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などについて理解している。 長距離走では、自己に適したペースを維持して走ることができる。</p> <p>【思考・判断・表現】 動きなどの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えていく。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 陸上競技に自主的に取り組むとともに、勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとするなど、自己の責任を果たそうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとするなどや、健康・安全を確保しようとしている。</p>	○	○	○	8

3 学 期	<p>単元：球技</p> <p>【知識及び技能】 勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開すること。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えること。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 球技に自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする。作戦などについての話し合いに貢献しようとする。一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする。互いに助け合い教え合おうとする。などや、健康・安全を確保すること。</p>	<p>・指導事項 バスケットボール ・教材 ・一人1台端末の活用 等</p>	<p>【知識・技能】 球技には、集団対集団、個人対個人で攻防を展開し、勝敗を競う楽しさや喜びを味わえる特性があることについて、言ったり書き出している。</p> <p>【思考・判断・表現】 提示された動きのポイントやつまずきの事例を参考に仲間の課題や出来栄を伝えている。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 球技の学習に積極的に取り組もうとしている。マナーを守ったり相手の検討を認めたりして、フェアなプレイを守ろうとしている。</p>	○	○	○	8
							合計 70



高等学校 令和5年度（2学年用）教科

外国語

科目

英語コミュニケーションⅡ

教科：外国語

科目：英語コミュニケーションⅡ

単位数：4 単位

対象学年組：第2学年 A組～H組

使用教科書：（MY WAY English Communication II）

教科 外国語

の目標：

【知識及び技能】文章を読むのに必要な文法知識を獲得する。

【思考力、判断力、表現力等】文章の展開や書き手の意図を把握し、概要や要点、詳細を捉える。

【学びに向かう力、人間性等】主体的に考えを詳しく話して伝えたり、相手からの質問に答える。

科目 英語コミュニケーションⅡ

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
英文を読むのに必要な文構造を理解できる。	様々な文章を読み、文章の展開や書き手の意図を把握し、概要や要点、詳細を捉えることができる。	多様な語句や文を用いて、主体的に考えを詳しく話して伝えたり、相手からの質問に答えることができる。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域					評価規準	知	思	態	配 当 時 数
		聞	読	話 （ や ）	話 （ 発 ）	書					
Lesson 1 Dances Around the World ●世界各地のさまざまなダンスについて、理解して考えを深めることができる。  ●紹介したい日本の踊りについて、意見を交換してまとめ、発表することができる。	SV0(O=that/what節)、SV0(O=if/whether節)、SV0102(O2=if/that/what節)を用いた文 ・教材 「MY WAY English Communication II」 「MY WAY English Communication II WORKBOOK」 「Jet Reading Level 2」 「Hyper Listening pre-intermediate」 「Data Base 4500」 ・一人1台端末の活用 等 課題提出、発表	○	○	○	○	○		○	○	○	14
Lesson 2 Katsura Sunshine— Making the World Laugh ●落語家である桂三輝さんの落語についての考え方や取り組み方について、理解して考えを深めることができる。  ●紹介したい日本文化について、意見を交換してまとめ、発表することができる。	形式主語のit、形式目的語のitを用いた文構造 ・教材 「MY WAY English Communication II」 「MY WAY English Communication II WORKBOOK」 「Jet Reading Level 2」 「Hyper Listening pre-intermediate」 「Data Base 4500」 ・一人1台端末の活用 等 課題提出、発表	○	○	○	○	○		○	○	○	14
定期考査								○	○		1
Lesson 3 Living with Nature— Takita Asuka's Journey ●滝田明日香さんが行う野生動物の保護活動について、理解して考えを深めることができる。  ●絶滅の危機にある動植物の現状について、意見を交換してまとめ、発表することができる。	・現在完了形、現在完了進行形、過去完了形、過去完了進行形を用いた文構造教材 「MY WAY English Communication II」 「MY WAY English Communication II WORKBOOK」 「Jet Reading Level 2」 「Hyper Listening pre-intermediate」 「Data Base 4500」 ・一人1台端末の活用 等 課題提出、発表	○	○	○	○	○		○	○	○	10
Lesson 4 Sesame Street ●『セサミストリート』に込められたメッセージについて、理解して考えを深めることができる。  ●紹介したいセサミストリートのキャラクターについて、意見を交換してまとめ、発表することができる。	SVOC(V=知覚動詞/使役動詞)、help +O+動詞の原形を用いた文構造 ・教材 「MY WAY English Communication II」 「MY WAY English Communication II WORKBOOK」 「Jet Reading Level 2」 「Hyper Listening pre-intermediate」 「Data Base 4500」 ・一人1台端末の活用 等 課題提出、発表	○	○	○	○	○		○	○	○	14

1  
学  
期



高等学校 令和5年度（2学年用） 教科 外国語 科目 論理・表現Ⅱ

教科： 外国語 科目： 論理・表現Ⅱ 単位数： 2 単位

対象学年組： 第 2 学年 A 組～ H 組

使用教科書： （ Standard Vision Quest English Logic and Expression II ）

教科 外国語

の目標：

【知識及び技能】

【思考力、判断力、表現力等】

【学びに向かう力、人間性等】

外国語の学習を通じて、言語の働きや役割などを理解する。外国語の技能（話すこと、書くこと）について、実際のコミュニケーションにおいて活用できる知識・技能を身に付ける。  
 場境・目的・状況等に応じて、日常的や社会的な話題について、情報や考えなどを外国語で的確に理解したり適切に伝え合ったりする。聞いたり読んだりしたことなどを活用して、自分の意見や考えなどを話したり書いたりして表現する。  
 他者を尊重し、聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら、外国語で聞いたり読んだりしたことを活用して、自分の意見や考えなどを話したり書いたりして表現しようとする。

科目 論理・表現Ⅱ

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
【知識】 英語の特徴やまきりに関する事項及びその働きや役割を理解している。 【技能】 目的や場境、状況に応じて、自分の意見や主張などを論理的構成や展開を工夫して、詳しく話したり書いたりして伝え合うことができる技能を身に付けている。	目的や場境、状況に応じて、自分の意見や主張などを論理的構成や展開を工夫して、詳しく話したり書いたりして伝え合っている。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手・読み手など他者に配慮しながら、主体的・自律的に表現しようとしている。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域				評価規準	知	思	態	配 当 時 数	
		聞	読	話 （ や ）	書						
A 単元 Lesson 1 (1) 話すこと [やり取り] 日常的な話題（将来の目標や達成）について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、一定の支援を活用すれば、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを詳しく話して伝え合ったり、自分自身の状況や要望を具体的に伝え合ったりすることができる。 (2) 話すこと [発表] 日常的な話題（将来の目標設定）について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、一定の支援を活用すれば、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理的構成や展開を工夫して詳しく話して伝えることができる。	・指導事項 話題 将来の目標：子供の理想の仕事について書かれた文章を読んで、適切な主語の使い方を理解する。 言語 適切な主語を用いる：主語の選択や主語になる名詞句、形式主語の概念を理解し、適切な文を組み立てる。 表現 目標と達成[書くこと]：自分の目標と達成のために必要なことについて、文と文のつながりを意識して書いて伝える。 論理 文と文をつぐ、様々な「つなぎの言葉」の用法を理解し、論理的構成が分かりやすい、まとまりのある文章を書く。 ・教材 [Vision Quest English Logic and Expression II Hope] 「教科書準拠ワークブック」 ・一人1台端末の活用、英作文添削サービス（スマコレ）	○	○	○	○	○	○	○	○	4	
											【知識及び技能】 知識 情報や考え、気持ちなどを論理的構成や展開を工夫して伝え合うために、適切な主語を用いた構造を理解している。 技能 将来の目標について、自分自身の状況や要望を論理的構成や展開を工夫して、話して伝え合う技能を身に付けている。 【思考力、判断力、表現力等】 パートナーと互いの情報や考え、気持ちなどを共有するために、将来の目標について、自分自身の状況や要望を論理的構成や展開を工夫して、話して伝え合っている。 【学びに向かう力、人間性等】 パートナーと互いの情報や考え、気持ちなどを共有するために、将来の目標について、自分自身の状況や要望を論理的構成や展開を工夫して、話して伝え合おうとしている。
B 単元 Lesson 2 話題 学校生活：学校で新しい友達を作る方法について書かれた文章を読んで、適切な動詞の使い分けについて理解する。 言語 適切な動詞を用いる：自動詞と他動詞を使い分けたり、群動詞を適切に用いたりして文を組み立てる。 表現 好きな学校行事 [書くこと]：留学生のために開催するイベントについて話した内容を英文で書いてまとめる。 論理 パラグラフ（パラグラフの基本構成/列挙・照応）：パラグラフの基本構成を学び、列挙・照応のメタファーを用いた論理的な構成やつなぎの言葉を適切に用いて、書いて伝える。	・指導事項 (1) 話すこと [やり取り] 日常的な話題（学校生活や行事）について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、一定の支援を活用すれば、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを詳しく話して伝え合ったり、自分自身の状況や要望を具体的に伝え合ったりすることができる。 (2) 書くこと 日常的な話題（行事の開催）について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、一定の支援を活用すれば、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理的構成や展開を工夫して詳しく書いて伝えることができる。 ・教材 [Vision Quest English Logic and Expression II Hope] 「教科書準拠ワークブック」 ・一人1台端末の活用、英作文添削サービス（スマコレ）	○	○	○	○	○	○	○	○	5	
											【知識及び技能】 知識 情報や考え、気持ちなどを論理的構成や展開を工夫して伝え合うために、適切な動詞を用いた構造を理解している。 技能 学校生活について、自分自身の状況や要望を論理的構成や展開を工夫して、話して伝え合う技能を身に付けている。 【思考力、判断力、表現力等】 学校生活について、パートナーと互いの情報や考え、気持ちなどを共有するために、自分自身の状況や要望を論理的構成や展開を工夫して、話して伝え合っている。 【学びに向かう力、人間性等】 学校生活について、パートナーと互いの情報や考え、気持ちなどを共有するために、自分自身の状況や要望を論理的構成や展開を工夫して、話して伝え合おうとしている。
定期考査											1
C 単元 Lesson 3 話題 スポーツ：スポーツの歴史について書かれた文章を読んで、時を表す表現の概念を理解する。 言語 時を表す：現在・過去・未来を表すために、適切な動詞の形や文の構造を用いて、表現 好きなアスリートと業績 [書くこと]：自分の好きなアスリートと業績について、パラグラフの構成を意識して詳しく書いて伝える。 論理 パラグラフ（例示・追加）：例示・追加のパターンを用いた論理的なパラグラフの構成やつなぎの言葉を適切に用いて、書いて伝える。	・指導事項 (1) 話すこと [やり取り] 日常的な話題や社会的な話題（スポーツの経験や知識）について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、一定の支援を活用すれば、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを詳しく話して伝え合ったり、自分自身の状況や要望を具体的に伝え合ったりすることができる。 (2) 話すこと [発表] 日常的な話題や社会的な話題（スポーツ選手の経歴）について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、一定の支援を活用すれば、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理的構成や展開を工夫して詳しく話して伝えることができる。 (3) 書くこと 日常的な話題や社会的な話題（好きなスポーツ選手と実績）について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、一定の支援を活用すれば、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理的構成や展開を工夫して詳しく書いて伝えることができる。 ・教材 [Vision Quest English Logic and Expression II Hope] 「教科書準拠ワークブック」 ・一人1台端末の活用、英作文添削サービス（スマコレ）	○	○	○	○	○	○	○	○	4	
											【知識及び技能】 知識 情報や考え、気持ちなどを論理的構成や展開を工夫して伝え合うために、現在、過去、未来を表す表現や文の構造を理解している。 技能 スポーツについて、自分自身の状況や要望を論理的構成や展開を工夫して、話して伝え合う技能を身に付けている。 【思考力、判断力、表現力等】 スポーツについて、パートナーと互いの情報や考え、気持ちなどを共有するために、自分自身の状況や要望を論理的構成や展開を工夫して、話して伝え合っている。 【学びに向かう力、人間性等】 スポーツについて、パートナーと互いの情報や考え、気持ちなどを共有するために、自分自身の状況や要望を論理的構成や展開を工夫して、話して伝え合おうとしている。
D 単元 Lesson 4 話題 情報化時代：ソーシャルメディアの使用で気をつけるべき点について書かれた文章を読んで、様々な助動詞の概念と文の構造を理解する。 言語 義務・必要・推量を表す：義務・必要・推量を表すために、助動詞を用いた適切な文の形や構造を理解し、文を組み立てる。 表現 ソーシャルメディアの利点と欠点 [書くこと]：高校生のソーシャルメディアの使用について、パラグラフの構成を意識して、自分の意見や主張を書いて伝える。 論理 パラグラフ（比較・対照）：比較・対照のパターンを用いた論理的なパラグラフの構成やつなぎの言葉を適切に用いて、書いて伝える。	・指導事項 (1) 話すこと [やり取り] 日常的な話題や社会的な話題（ソーシャルメディア）について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、一定の支援を活用すれば、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを詳しく話して伝え合ったり、自分自身の状況や要望を具体的に伝え合ったりすることができる。 (2) 話すこと [発表] 日常的な話題や社会的な話題（ソーシャルメディアの問題点と原因）について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、一定の支援を活用すれば、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理的構成や展開を工夫して詳しく話して伝えることができる。 (3) 書くこと 日常的な話題や社会的な話題（ソーシャルメディアの長所と短所）について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、一定の支援を活用すれば、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理的構成や展開を工夫して詳しく書いて伝えることができる。 ・教材 [Vision Quest English Logic and Expression II Hope] 「教科書準拠ワークブック」 ・一人1台端末の活用、英作文添削サービス（スマコレ）	○	○	○	○	○	○	○	○	4	
											【知識及び技能】 知識 情報や考え、気持ちなどを論理的構成や展開を工夫して伝え合うために、義務・必要・推量を表す表現や文の構造を理解している。 技能 ソーシャルメディアについて、自分自身の状況や要望を論理的構成や展開を工夫して、話して伝え合う技能を身に付けている。 【思考力、判断力、表現力等】 ソーシャルメディアのアカウント作成について、クラスメートと情報や考え、気持ちなどを共有するために、自分の意見や主張などを論理的構成や展開を工夫して、話して伝え合っている。 【学びに向かう力、人間性等】 ソーシャルメディアのアカウント作成について、クラスメートと情報や考え、気持ちなどを共有するために、自分の意見や主張などを論理的構成や展開を工夫して、話して伝え合おうとしている。





高等学校 令和5年度（1学年用）教科

家庭 科目 家庭基礎

教科：家庭

科目：家庭基礎

単位数：2 単位

対象学年組：第2学年 A組～

H組

使用教科書：（東京書籍「家庭基礎 自立・共生・創造」）

教科 家庭

の目標：

【知識及び技能】

人間の将来にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会との関わりについて理解を深め、家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて、生活を主体的に営むために必要な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】

家庭や地域及び社会における生活の中から課題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して生活の課題を解決する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】

様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を主体的に創造しようとする実践的な態度を養う。

科目 家庭基礎

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。	家庭や地域及び社会における生活の中から課題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養う。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実の向上を図ろうとする実践的な態度を養う。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
<p>A単元「青年期の自立と家族・家庭」</p> <p>【知識及び技能】 生涯発達の視点で青年期の課題を理解するとともに、家族・家庭の機能と家族関係、家族・家庭生活を取り巻く社会環境の変化や課題、家族・家庭と社会との関わりについて理解する。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 家庭や地域のよりよい生活を創造するために、自己の意思決定に基づき、責任をもって行動することや、男女が協力して、家族の一員としての役割を果たし家庭を築くことの重要性について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付ける。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、青年期の自立と家族・家庭について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>PDCAサイクルにのっとり生活設計について考える。</li> <li>生活にはどのような場面で金銭が必要となるか考える。</li> <li>青年期の生き方について自立の観点から学習する。</li> <li>自己分析をすることで自分らしい生き方について考える。</li> <li>生活を支える労働について学ぶ。</li> <li>将来の職業選択について考える。</li> <li>グラフを見ながら、生活時間について考え、男女の違いについて比較する。</li> <li>これからの家庭生活や社会のあり方について、どのような改善が必要か考え、話し合う。</li> <li>さまざまな家族形態について学ぶ。</li> <li>世帯構成の変化について学習し、現代の家族の課題と支援について、事例をもとに考える。</li> <li>世帯構成の変化について学習し、現代の家族の課題と支援について、事例をもとに考える。</li> <li>家族に関する法律を知り、その理念や現在の動きについて学ぶ。</li> </ul>	<p>【知識・技能】 生涯発達の視点で青年期の課題を理解しているとともに、家族・家庭の機能と家族関係、家族・家庭生活を取り巻く社会環境の変化や課題、家族・家庭と社会との関わりについて理解を深めている。</p> <p>【思考・判断・表現】 家庭や地域のよりよい生活を創造するために、自己の意思決定に基づき、責任をもって行動することや、男女が協力して、家族の一員としての役割を果たし家庭を築くことの重要性について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、青年期の自立と家族・家庭について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。</p>	○	○	○	10
<p>B単元「衣生活と健康」</p> <p>【知識及び技能】 ライフステージや目的に応じた被服の機能と着装について理解するとともに、健康で快適な衣生活に必要な情報の収集・整理ができるようになる。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 被服の機能性や快適性について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付ける。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、衣生活と健康について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>人と衣服のかかわりや、衣服の機能について学習する。</li> <li>快適で安全な衣服について学習する。</li> <li>繊維の種類と特徴、糸や布について学習する。</li> <li>衣類素材の性能や加工・改善について学習する。</li> <li>衣服の入手から処分までの流れを学習する。</li> <li>衣服の表示を見ながら、衣服購入のポイントについて考える。</li> <li>洗濯の種類と方法、洗剤のはたらきについて学ぶ。</li> <li>家庭での洗濯方法・保管の方法などについて学ぶ。</li> <li>衣生活と資源・環境とのかかわり、また、環境に配慮した衣生活について学習する。</li> <li>ファストファッションについて、事例を挙げながら話し合い、商品選択の際に心がけることを考える。</li> </ul>	<p>【知識・技能】 ライフステージや目的に応じた被服の機能と着装について理解しているとともに、健康で快適な衣生活に必要な情報の収集・整理ができる。</p> <p>【思考・判断・表現】 被服の機能性や快適性について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、衣生活と健康について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。</p>	○	○	○	9
<p>C単元「ホームプロジェクト」</p> <p>【知識及び技能】 ホームプロジェクト及び学校家庭クラブ活動の意義と実施方法について理解する。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 自己の家庭生活や地域の生活と関連付けて生活上の問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付ける。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、ホームプロジェクトと学校家庭</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ホームプロジェクトに関心を持ち、主体的に学習活動に取り組む。</li> <li>生活上の課題を見だし、その解決を目指して科学的に探究する。</li> <li>生活上の課題に対する成果と課題をまとめて発表し、活動全体を振り返る。</li> </ul>	<p>【知識・技能】 ホームプロジェクト及び学校家庭クラブ活動の意義と実施方法について理解している。</p> <p>【思考・判断・表現】 自己の家庭生活や地域の生活と関連付けて生活上の問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参</p>				4

	<p>クラブ活動について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとする。</p>										
	定期考査							○	○	1	
	<p>D単元「食生活と健康」</p> <p>【知識及び技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ライフステージに応じた栄養の特徴や食品の栄養的特質、健康や環境に配慮した食生活について理解するとともに、自己や家族の食生活の計画・管理に必要な技能を身に付ける。</li> <li>・おいしさの構成要素や食品の調理上の性質、食品衛生について理解するとともに、目的に応じた調理に必要な技能を身に付ける。</li> </ul> <p>【思考力、判断力、表現力等】</p> <p>食の安全や食品の調理上の性質、食文化の継承を考慮した献立作成や調理計画、健康や環境に配慮した食生活について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付ける。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <p>様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、食生活と健康について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食を食べることと健康のかかわり、現代の食生活の変化と問題点について学習する。</li> <li>・5大栄養素と水について学習し、からだのつながりについて考える。</li> <li>・炭水化物の働きと、炭水化物を多く含む食品について学ぶ。</li> <li>・脂質の働きと、脂質を多く含む食品について学ぶ。</li> <li>・たんぱく質の働きと、たんぱく質を多く含む食品について学ぶ。</li> <li>・ビタミンの働きと、ビタミンを多く含む食品について学ぶ。</li> <li>・ミネラルの働きと、ミネラルを多く含む食品について学ぶ。</li> <li>・味に大きな影響を及ぼす調味料や香辛料、さまざまな加工食品について学ぶ。</li> <li>・食品の旬や選択する際のポイント、食品の品質表示について学ぶ。</li> <li>・食中毒の種類を学び、衛生的な管理に結びつける。また、食品添加物の使用の目的や安全性についても学ぶ。</li> <li>・調理の一連の流れを実践し、その理論やコツを学習する。</li> </ul>	<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ライフステージに応じた栄養の特徴や食品の栄養的特質、健康や環境に配慮した食生活について理解しているとともに、自己や家族の食生活の計画・管理に必要な技能を身に付けている。</li> <li>・おいしさの構成要素や食品の調理上の性質、食品衛生について理解しているとともに、目的に応じた調理に必要な技能を身に付けている。</li> </ul> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>食の安全や食品の調理上の性質、食文化の継承を考慮した献立作成や調理計画、健康や環境に配慮した食生活について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、食生活と健康について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。</p>					○	○	○	12
2学期	<p>E単元「共生社会と福祉」</p> <p>【知識及び技能】</p> <p>生涯を通して家族・家庭の生活を支える福祉や社会的支援について理解する。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】</p> <p>家庭や地域及び社会の一員としての自覚をもって共に支え合って生活することの重要性について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付ける。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <p>家庭や地域及び社会の一員としての自覚をもって共に支え合って生活することの重要性について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付ける。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護保険制度について学習する。</li> <li>・これからの介護と課題について、事例を用いて考える。</li> <li>・福祉、ソーシャル・インクルージョンの考え方を学ぶ。</li> <li>・自助、互助、共助、公助の状況に応じたバランスを考える。</li> <li>・社会保障制度とその目的について学ぶ。</li> <li>・地域福祉の担い手を考え、助け合うことについて学ぶ。</li> <li>・ボランティア活動の必要性や意欲について、話し合いを通じて考える。</li> </ul>	<p>【知識・技能】</p> <p>生涯を通して家族・家庭の生活を支える福祉や社会的支援について理解している。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>家庭や地域及び社会の一員としての自覚をもって共に支え合って生活することの重要性について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、共生社会と福祉について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。</p>					○	○	○	4

